

# 生成AI 導入/活用ガイド

AI活用分科会

第1.0版

2026/4/30

本ガイドラインは、以下の内容で構成されています。

必ずしも上から順番に参照する必要はなく、自社の困りごとに応じて、必要な個所のみ参照してください。

1. 本ガイドラインの概要（ガイドライン活用主旨）
2. 生成AI活用効果
3. 生成AI活用の必然性と機能
4. 生成AIの仕様による分類とそれぞれの特徴
  - ①一般的な生成AI（Gemini、ChatGPT、Perplexity、Azure AI etc.）
  - ②RAG（Retrieval-Augmented Generation）
  - ③アプリ内生成AI（SalesForce、BOX etc.）
5. 生成AIの導入のための準備/施策
  - ①導入検討 ②体制 ③社内規定 ④内部統制 ⑤手順
  - ⑥データ保全とセキュリティ ⑦補助金申請方法
6. 今後予想される生成AIの発展

用語集 他

# 1. 本ガイドラインの概要

(ガイドライン活用主旨)

- ① ガイドラインの活用について
- ② 生成AIについて
- ③ 本ガイドラインを活用いただきたい方

# ① ガイドラインの活用について

本ガイドラインは、生成AIの導入を検討している企業、すでに導入を進めている企業、そして導入後さらなる活用を目指す企業の皆さまに向けて作成しました。

生成AIは業務効率化や新たな価値創出の可能性を秘めていますが、その活用には適切なルールと理解が不可欠です。本ガイドラインでは、安全性・信頼性・透明性を確保しながら、企業が段階的かつ効果的に生成AIを導入・活用できるための基本的な考え方と実践ポイントを示します。



本資料を通じて、貴社の生成AI活用がより確実に持続的なものとなることを目指しています。

## ② 生成AIについて

本ガイドラインは、生成AI活用をターゲットとしています

### 【なぜ生成AIなのか？】

近年、AI技術は急速に進化し、その活用はさまざまな分野で広がりつつあります。しかし「AI」という言葉自体は非常に幅広く、センシングAI、AIEージェント、自動翻訳など、多様な技術が含まれています。その中で、特に注目を集め、企業への導入が急速に進んでいるのが生成AI（Generative AI）です。

生成AIは、テキストや画像、コードなどを自動生成する能力を持ち、専門的なIT知識がなくても簡単な指示で利用できる点が大きな特徴です。この手軽さと汎用性により、企画・マーケティング・顧客対応・開発支援など、幅広い業務で活用が期待されています。

本ガイドラインは、AI全般の包括的なルールではなく、現時点で最も導入が進み、業務に直接影響を与える生成AIに的を絞って作成しています。これにより、企業が段階的に取り組みやすく、実務に直結する指針を提供することを目的としています。

## 【生成AI (Generative AI) とは】

テキスト、画像、音声などのコンテンツを自動的に生成する人工知能のことです。従来のAIが「判断や分類」を得意としていたのに対し、生成AIは「新しい情報や表現を作り出す」ことを特徴としています。

代表的な例として、文書の要約や企画書のドラフト作成、画像の生成、プログラムコードの自動生成などがあります。これらは、専門的なIT知識がなくても、簡単な指示（プロンプト）を入力するだけで利用できるため、幅広い業務で活用が進んでいます。

ただし、生成AIは万能ではなく、誤った情報を出力することや、著作権・情報漏えいなどのリスクもあります。そのため、適切なルールと理解を持って活用することが重要です。

### ③ 本ガイドラインを活用いただきたい方

#### ● 事業会社 IT部門リーダー/生成AI導入・活用推進担当者

- 生成AIを導入すれば、どのように活用し業務で効果があるのか知りたい
- 生成AIに興味や関心が薄い経営層や現場リーダーに活用メリットを訴求したい
- 漠然と経営層から生成AIの検討・導入を促され、具体的に進めて行きたい
- ベンダーからの提案や紹介に際し、判断ポイントが知りたい
- 生成AIの活用にセキュリティなど漠然とした不安を感じ、注意点などを解消したい

#### ● ITベンダー 生成AIプロダクトマネージャー

- 自社の製品/サービスを業界に特化したユースケースが不足しており、メリットを定義づけたい
- 顧客のニーズが曖昧で、どこに生成AI活用すべきか、ユーザの立場で説明したい
- 提案内容が技術寄りになりすぎて、経営層に響かない

## 2. 生成AI活用効果

## 現場にたまっているノウハウの共有・継承がうまくすすまない



- 大きな成果があった改善ノウハウがその製造ラインのみの活用にとどまっている
- いままでの改善活動が手順で積みあがっているので、現状の改善ポイントが判別しづらい
- 退職を控えている熟練の方のノウハウの引継ぎ先が定まっていない



**それ、生成AIが解決できるかも**



膨大な資料の検索 & 読込ではなく

いつでも召喚できる熟練技術者との会話でノウハウを取得

**いままで積み上げたノウハウをデータで表現。再現と横展開がよりスピーディに**

## 営業活動のノウハウを、個人留まり、または直接指導だけで新人営業の育成が遅い



- 他の営業員の活動経験を吸収するためには、膨大な量の営業報告書を読まなければならない
- 他の営業員の成功体験と成功のポイントは仲良くなって初めて教えてもらえる
- 営業活動の改善は手探り。その改善の効果もぼんやりとしか把握できない



**それ、生成AIが解決できるかも**



膨大な資料の検索&読込ではなく

いつでも召喚できる熟練営業マンとの会話でノウハウを取得



**顧客別・製品別の営業ノウハウが会話形式で新人営業にも習得可能**

## 積みあがった膨大なレポートから参考情報を探すのに疲れて、進歩がない



- 自分の研究開発に役立つ情報が過去のレポートにあるはずだが、探すのに時間がかかる
- レポートや資料の検索は断片的なキーワードに頼らざるを得ず結局全部読むことになり疲れる
- 特許情報などの整理と検索に時間がかかり新しいことにチャレンジするモチベーションが削られる



## それ、生成AIが解決できるかも



- RAGで膨大なデータから興味ある話だけピックアップ
- セキュアな環境を保持しつつ、データ利用も促進

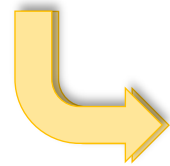


いままでの歴史を最大限活用し、会社の未来への挑戦に全力投球できる環境

## 営業が取得した新しい製品の可能性や市場ニーズの情報が個人どまりになっていませんか？



- 情報の共有を組織をまたいで行うときに、情報の欠落が起きている
- 研究職は膨大な量の営業報告書から自身に関連・興味があるところのピックアップは不可能
- 営業職は、ちょっと聞いた話などを挙げても誰も読まないの、報告してもむなしい。



**それ、生成AIが解決できるかも**



- RAGで膨大なデータから興味ある話だけピックアップ
- いままで接点がなかった社員同士のコラボが促進

**市場と接点のある営業職の情報が活用され、新規ビジネスの可能性が広がります**

生成AIを社内に導入・活用することによって、以下のような効果が期待できます。

① <b>業務生産性の向上／自動化</b>	定型作業や文書作成、要約、フォーマット変換などを自動化
② <b>コスト削減</b>	人手で行っていた作業の自動化により人件費・外注費を削減
③ <b>意思決定のスピードと質の改善</b>	レポート自動生成や要点抽出、シナリオ分析で意思決定に必要な情報提供を迅速化
④ <b>ナレッジ活用・組織知の定着</b>	社内ドキュメントを検索・要約して活用しやすくすることで、 属人化を解消しナレッジ共有を促進
⑤ <b>新規サービス・製品開発（イノベーション）</b>	アイデア生成やプロトタイプ作成支援、市場要件の分析などで 企画→検証のサイクルを速める
⑥ <b>品質向上・ヒューマンエラー低減</b>	文書チェック、法務レビューのドラフト、ルールに基づく検査で 人的ミスを減らす

生成AI導入によって、働き方と業務品質を変えることができます

# 3. 生成AI活用の必然性と機能

- ① 業務基盤としての生成AI導入について（必然性）
- ② 生成AIとはなにか

# ① 業務基盤としての生成AI導入について（必然性）

企業が新しい技術を導入する際、コスト効果（ROI）を検討することは一般的です。しかし、生成AIに関しては、**その導入を「必要性」ではなく「必然性」として捉えることが重要です。**

かつて、企業がネットワークやメールを導入したとき、ROIを細かく計算してから決定したでしょうか？多くの場合、そうではありませんでした。なぜなら、それらは業務の基盤となり、導入しなければ競争力を維持できないと考えられたからです。

生成AIも同様です。今後のビジネス環境において、生成AIは単なる効率化ツールではなく、企業の競争力を支える「新しい基盤技術」です。導入を先送りすることは、情報活用力や業務スピードで大きな差を生むリスクにつながります。

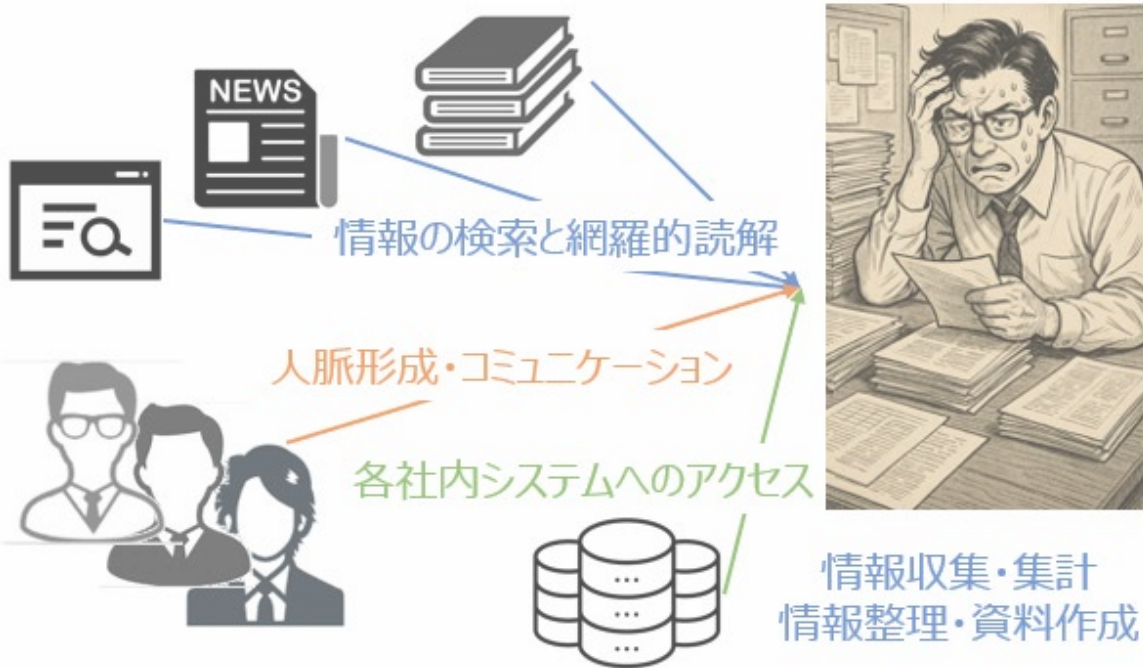


本ガイドラインでは、ROIの議論を超えて、生成AIを企業活動に組み込むための基本的な考え方と安全な活用のポイントを示します。**生成AIは「導入すべきかどうか」ではなく、「どのように活用を広げるか」が問われています。**

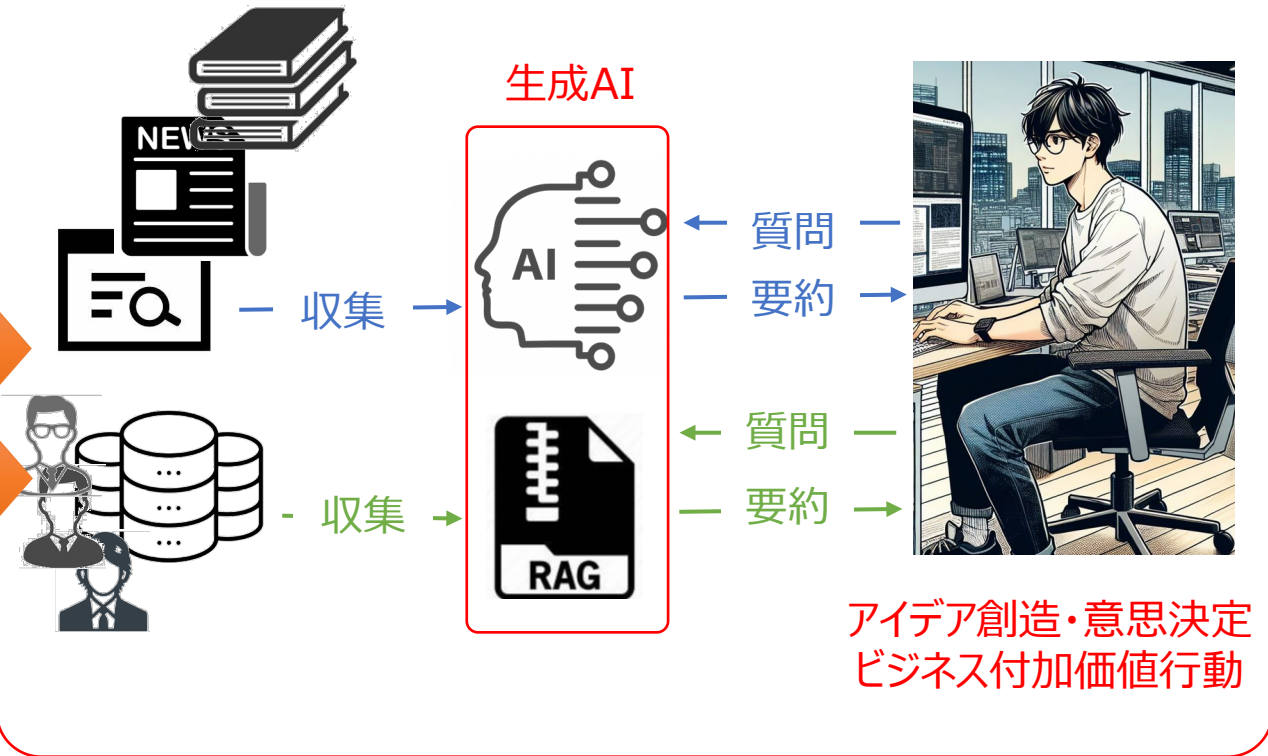
## ② 生成AIとはなにか

生成AIは、従来の「指示を与えれば予め決められたアクションをする」システムではなく、「聞けばその都度答を考える」相談相手です。

### 生成AI 未活用



### 生成AI 活用

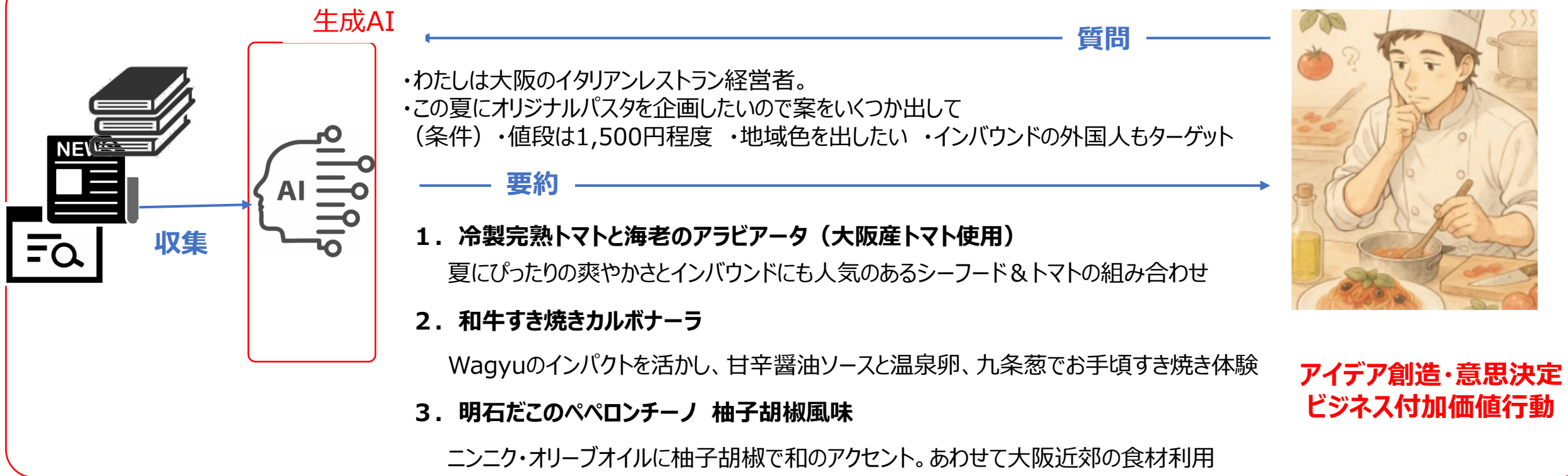


ヒトが付加価値を創出する行動に出るまでの、事前準備として必要であった、各種文書の検索と読解、社内DBへの個別のアクセスと組み合わせ、それぞれの専門分野への人財とのコミュニケーションなどの時間と労力が大幅に削減され、付加価値行動に集中できる環境が創出されます ⇒ 付加価値の創出力に圧倒的な差が！

## ② 生成AIとはなにか

- 生成AIがなぜ「相談相手」なのか

### 生成AI 活用



生成AIは「拡張された回答」ができます。上記のように、「何が正解かわからない」問いに対しても、インターネット上の情報を集約することで、案出しが可能です。当然、「なにが正解かわからない」ので誤った回答をする可能性は排除できません。(人間の相談相手と同じ) ※これをハルシネーションといいます

## ② 生成AIとはなにか

### 生成AIのハルシネーションとは。

ハルシネーションとは、生成AIが「誤情報」を回答してしまう現象のことです  
ハルシネーションが起きる原因

#### ① 学習データの偏り：

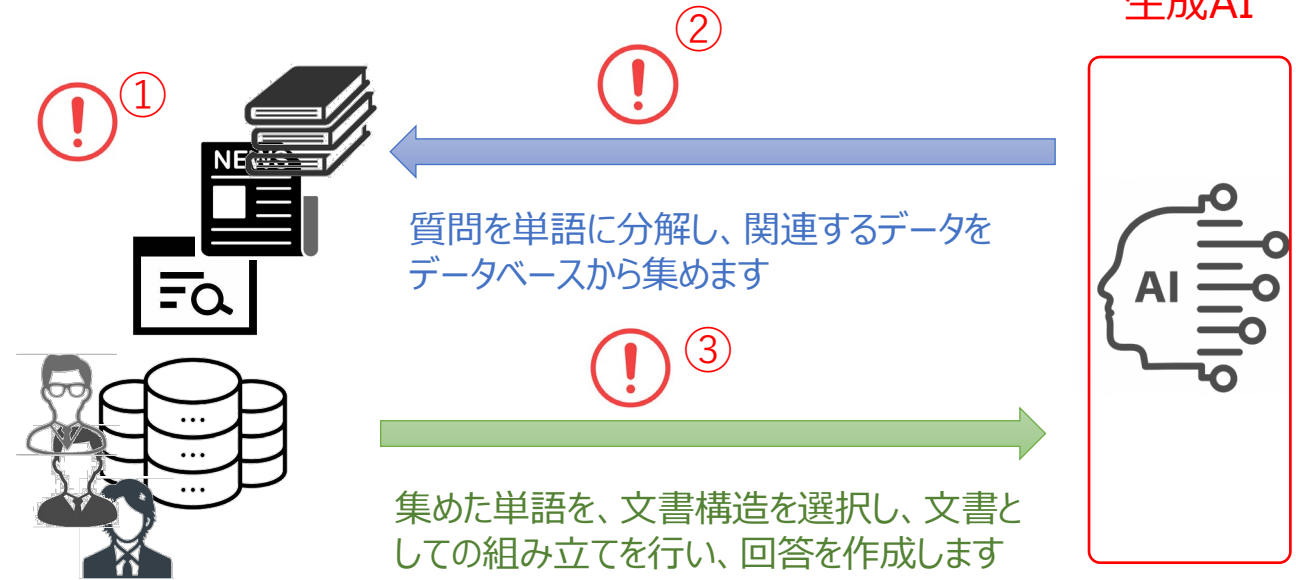
AIが学習するデータに偏りがあると、誤った関連性を見出してしまうことがあります。

#### ② 文脈理解の限界：

AIは単語の並びを理解できますが、深い意味や文脈を完全には理解できないため、誤った情報を生成することがあります。

#### ③ 情報の正誤判定ができない：

AIは情報の正確さを判断する能力がないため、誤った情報を真実として扱ってしまうことがあります。



### わかりやすいハルシネーションの例

法律・規制・制度に関する質問 「日本の個人情報保護法の最新改正内容は？」  
→ モデルは過去の情報を基に推測し、誤情報を出す可能性が高い。

未確認の未来予測や仮定 「来年の株価はどうなる？」  
→ モデルは予測不能な情報をもっともらしく生成する。

# 4. 生成AIの仕様による分類と それぞれの特徴

生成AIの分類について

- ① 一般的な生成AI
- ② RAG型生成AI
- ③ アプリ内生成AI

生成AIと一口にいっても、その仕様は様々で  
ここでは、生成AIについての大分類を行い、それぞれの特性を解説します

## ①一般的な生成AI (スタンドアロン型)

インターネット上に存在するデータを利用/学習して単体で動作  
汎用的な使い方を利用します  
**導入にあたって事前準備は必要ありません**

- ・問に対する、一般知識に基づいた回答・アドバイス
- ・議事録の作成、文章の添削
- ・多言語翻訳
- ・依頼コンテンツ作成（資料・画像等）

## ②RAG型生成AI (ハイブリッド型)

社内の特定のデータを組み込んだ社内専用のオリジナルの生成AIです  
自社製品などに特化したヘルプデスクやサポート、研究開発等に利用可能です  
**データ準備等、事前準備と環境設定が必要になります**

- 社内では整備したデータを基に、左記に加え
- ・社内のFAQ対応
- ・営業提案書作成支援
- ・会議のアジェンダ支援
- ・作成した社内資料のレビュー

## ③アプリ内生成AI (API型)

社内で活用しているパッケージシステムに付随して提供される生成AIです。  
システム内の情報をもとに目的/特色に特化して動作  
**原則として、システムを利用していれば事前準備は必要ありません**


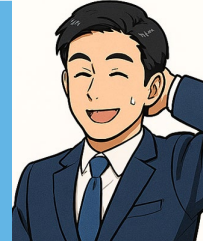

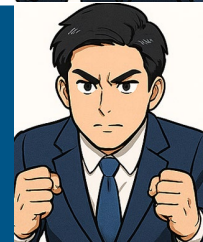
- パッケージ内にある情報を基に、左記内容の活用可能

解説

活用用途


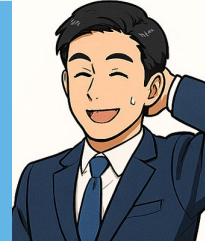

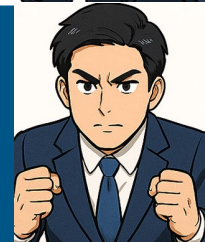
# 生成AIの分類について

前頁の生成AI大分類の特性をまとめました。(その1)

種類	例	セキュリティ	社内データ	アップデート	自社カスタマイズ	導入容易性
個人契約・利用の一般的な生成 AI	Chat GPT Copilot Gemini	✗ 機密情報流出の リスク防止できない	業務利用を禁止するべき			
会社契約の一般的な生成AI P.24~	Chat GPT Copilot Gemini	○ 契約確認要	✗ 少数のファイルで なら可能な場合あり	◎	✗	易 アカウント管理 だけ 
RAG P.28~	LangChain Haystack Kendra + Bedrock	○	○	△ 基本自社対応	◎ 返答のロジックを 自在に変更できる	難 専門チームが 必要 
アプリ内生成AI P.37~	Box AI TERUS Glean	○	△ 該当のアプリ内 データに限定される	○ 場合によっては 追加費用発生	✗	中 運用設計の 必要あり 




# 生成AIの分類について

前頁の生成AI大分類の特性をまとめました。(その2)

種類	例	回答の正確性	コスト (初期費用/ランニング)	ユーザー教育	
個人契約・利用の一般的な生成 AI	Chat GPT Copilot Gemini	業務利用を禁止するべき			
会社契約の一般的な生成AI P.24~	Chat GPT Copilot Gemini	△ モデル次第だが改善の余地あり (企業向けツールで管理)	◎ 初期低~中 ランニングは契約で予測可能 (エンタプランは高め)。	易 お試し導入可能	
RAG P.28~	LangChain Haystack Kendra + Bedrock	◎ 改善しやすい (根拠データのリンクや文書生成エンジンのカスタマイズ可)	△ 初期高 (インフラ・開発) ランニングは高~中 (運用人員要・クラウド費用)	難 目的明確化・体制構築必要	
アプリ内生成AI P.37~	Box AI TERUS Glean	○ ソース連携で抑制可 (アプリ提供ベンダーの仕様に準拠)	○ 初期中 (連携設定) ランニングはサブスク形式で予測しやすい。	中 既存システム運用改善善要	

# 生成AIの分類について

前頁の生成AI大分類を、導入の目的ごとに整理しました

	種類		
導入難易度 (導入順番) ↓	会社契約の 一般的な生成AI P.24~		<ul style="list-style-type: none"><li>生成AI自体を事業活動になじませたい</li><li>個々の業務単位で効率化を図りたい</li><li>世間（インターネット）の情報をより活用したい</li></ul>
	アプリ内生成AI P.28~		<ul style="list-style-type: none"><li>業務単位/部署単位で業務効率化をすすめたい</li><li>すでに導入しているシステム（ERP等）のデータをより活用したい</li><li>社内データを生成AIで活用することの効果を見定めたい</li></ul>
	RAG P.37~		<ul style="list-style-type: none"><li>生成AIのエンジン（LLM）も自社に合わせてカスタマイズしたい</li><li>非構造データも含め、大規模に生成AIの社内活用をすすめたい</li><li>生成AIの自社の差別化・競合優位性の確保に役立たせたい</li></ul>

生成AI活用の究極の目的は “**D**ifferentiation” “**D**iscoverability” **D**irect relationships”  
差別化 発見可能性 直接の顧客関係性構築

# ① 一般的な生成AIとは（検索システムとの違い）

通常の実索システムはキーワードに基づいて情報を一覧表示するのに対し、生成AIは質問（query）の文脈を理解し、学習済みの知識をもとに自然文で回答を生成します。回答レベルは、幅広い分野において大学卒業～大学院修士レベルの知識を持ち、特定分野では専門家に近い回答も可能です。ただし、常に正確とは限りません。

項目	検索システム	一般的な生成AI
処理方式	キーワードベースの実索	質問に対して関連情報を検索し、生成AIが自然文で回答
出力形式	検索結果の一覧（リンクや文書）	質問に対する自然言語の回答（要約・説明など）
ユーザ操作	ユーザが情報を選んで読む	AIが情報を選び、統合して回答
内容の理解要約	ユーザが読む必要あり	要約・説明
複雑な質問への対応	検索結果を自分で解釈	AIが文脈を理解して回答
ナレッジ活用	情報が断片的	複数文書を統合して回答

# ① 一般的な生成AIとは（検索システムとの違い）






## 活用面のメリット・デメリット

項目	検索システム	一般的な生成AI
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・キーワード検索で確実な文書取得</li><li>・原文をそのまま確認できる</li><li>・検索結果の信頼性が高い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・質問に対して自然文で回答</li><li>・複数文書を横断的に要約・統合</li><li>・文脈理解に優れ、業務支援に有効</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・ユーザーが自分で情報を読む必要あり</li><li>・複雑な質問には対応しづらい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・回答の正確性にばらつきがある</li><li>・誤った要約や誤解の可能性あり</li></ul>

# ①一般的な生成AI一覧








※2026年1月現在

名称	提供会社	特徴	会話データの扱い	データ所在	ライセンス体系
<b>Copilot</b> 	Microsoft	Microsoft 365やWindowsに統合されている生成AI。文書作成、データ分析、プレゼン作成に強み	モデルに使用されない 個別会話削除可能	米国DC	M365サブスク
<b>Gemini</b> 	Google	個人向けのAIアシスタントで、文章生成、画像生成、動画生成など多様なタスクに対応。	原則モデルに使用されない。	米国DC	Googleアカウント
<b>ChatGPT</b> 	OpenAI	適度な自然言語処理能力を持ち、会話形式での応答や文章生成が可能。多言語対応。	モデル改善に利用されるが 設定で禁止可	米国DC	API課金
<b>Claude</b> 	Anthropic	善性と倫理性を重視した生成AI。多様なタスクに対応し、ユーザーのプライバシーを保護。	厳格なアクセス制御による 管理	米国DC	API課金
<b>LLaMA</b> 	Meta (旧Facebook)	大規模なトランスフォーマーモデルで、自然言語処理タスクに高い性能を発揮。研究目的での利用	データの取り扱いは利用者 の設定に依存	米国DC	オープン

# ①一般的な生成AI一覧



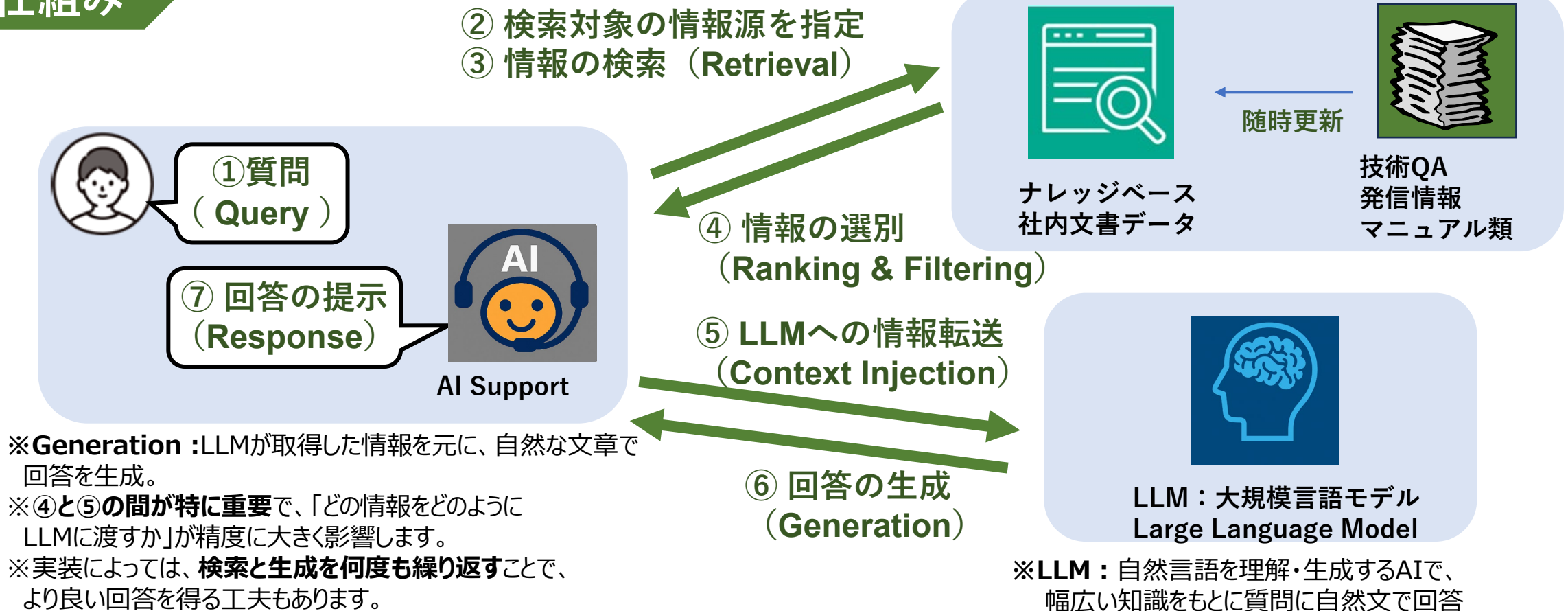
※2026年1月現在

名称	提供会社	特徴	会話データの扱い	データ所在	ライセンス体系
<b>CyberAgentLM</b> 	サイバーエージェント	日本語および英語データで事前学習を行い、70億パラメータと32,000トークン対応で、約50,000文字の長文処理能力を持つ。	モデルに使用されない データ暗号化	日本DC	サブスク
<b>tsuzumi</b> 	NTT	高い日本語処理能力を持つ軽量な大規模言語モデル。エネルギー消費とコストを抑えつつ、高速な推論動作を実現。	モデルに使用されない データ匿名化	日本DC	使用量従量課金
<b>AmiVoice</b> 	Advanced Media, Inc.	音声認識技術を活用した生成AI。医療やコールセンターでの音声入力に利用。	モデルに使用されない 暗号化して保存	日本DC	サブスク
<b>SPESILL</b> 	(株)ファーストオートメーション	製造業向けに特化した生成AIツール。文書作成、図作成、チャットボット機能を提供。	モデルに使用されない データ暗号化	日本DC	商用ライセンス
<b>COTOHA</b> 	NTT Communication S	日本語の自然言語処理に特化した生成AI。チャットボットや自動翻訳に利用。	モデルに使用されない 一時的に保存し、処理後に削除	日本DC	使用量従量課金

## ② RAG型生成AIの仕組み

社内の特定のデータを組み込み、社内専用のオリジナルの生成AIです  
自社製品などに特化したヘルプデスクやサポート、研究開発等に利用可能です  
データ準備等、事前準備と環境設定が必要になります（RAG:検索強化生成 Retrieval-Augmented Generation）

### 仕組み



## ② RAG型生成AI（社内検索システムとの違い）

従来のキーワード検索とは異なり、RAGでは質問の文脈を理解し、社内情報をもとに自然文で要約・回答が可能です。導入にはベクトルDBやLLMとの連携など、技術的な構成知識が求められます。環境設計や運用に不安がある場合は、経験豊富なサポートベンダーへの支援依頼もご検討ください。

項目	社内検索システム	RAG型AIシステム
入力処理	キーワード検索	自然言語で質問
処理内容	検索結果を表示	AIが要約・再構成
データ構造	インデックス化文書	ベクトル化文書 + 生成モデル
技術構成	検索エンジン（例：Elasticsearch）	ベクトルDB + LLM
更新頻度	定期インデックス更新	動的に反映可能

## ② RAG型生成AI（社内検索システムとの違い）

### 活用面のメリット・デメリット

社内情報を参照する上で、①一般的な生成AIと検索システムとの違いとほぼ同じです

### 導入面の比較

項目	社内検索システム	RAG型AIシステム
導入のしやすさ	◎ 比較的容易（既存の検索エンジンや全文検索技術を活用可能）	△ 技術的な構成が複雑（ベクトルDB、LLM連携、Embedding処理など）
初期コスト	○ 低め（既存インフラを活用しやすい）	△～× 高め（新規構成・モデル連携・セキュリティ設計が必要）
運用負荷	◎ 安定運用が可能（文書更新も容易）	△ 文書更新時にEmbedding再生成が必要、モデルの精度管理も必要
社内ITとの親和性	◎ 既存の社内システムと統合しやすい	△ 新しい技術スタックが必要（クラウド連携やAPI設計など）
ベンダー依存度	△ 自社運用も可能	△～× 専門ベンダーの支援が望ましい（設計・導入・運用）

## ② RAG型生成AIの一般的な活用事例

活用領域	活用内容	期待される効果
社内ナレッジ検索	社内規定、手順書、FAQなどを検索・要約	問い合わせ対応の効率化、自己解決率の向上
カスタマーサポート	過去の対応履歴や製品マニュアルを検索して回答	オペレーター支援、対応品質の均一化
営業支援	製品情報、提案書、契約書の内容を検索・要約	提案準備の迅速化、知識の属人化防止
法務・契約管理	契約書や法令文書の検索・要約	リスク確認の迅速化、レビュー支援
研究開発・技術文書管理	技術資料、特許情報、社内報告書の検索	情報探索の効率化、技術継承の促進
人事・総務	社内制度、福利厚生、就業規則の検索	社員からの問い合わせ対応の自動化

## ② RAG型生成AIの一般的な活用イメージ



B製品開発にあたり、旧A製品の過去の不良事例を調べ参考にしたい

### 【検索システムの場合】

「A製品 不良事例 対策」入力



検索結果一覧（文書リンク）

-2022年 A製品の不良事例一覧.pdf  
-A製品の品質管理報告書  
-不良対策マニュアル



- ・ 関連リンク先の複数内容確認
- ・ 個人のスキルに頼った判断・まとめ

※30分以上の時間必要

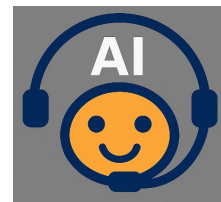


### 【RAG型生成AIの場合】

「B製品開発にあたり、旧A製品の過去の不良事例を調べ参考にしたい」入力



社内文書を検索 + 要約生成 + 自然文で回答

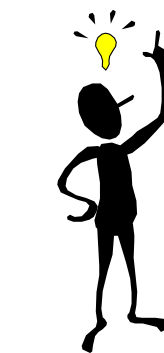


A製品では2021年に接触不良が複数件発生しており、原因はコネクタ部の設計不備でした。対策として、設計変更と検査工程の追加が実施され、2022年以降は同様の不良は報告されていません。

回答を元に追加の質問可能

- ・ 更なる詳細確認
- ・ B製品開発についての注意アドバイス

※理解しやすく数分で確認



## ② RAG型生成AI ～導入の流れ

### 1. 目的・活用範囲の明確化

- どの業務で使うか（例：社内ナレッジ検索、技術QA、営業支援など）
- どの情報を対象にするか

### 2. 準備

- 社内文書データ：検索対象となる文書（形式：PDF、Word、HTMLなど）
- 文書の整理・分類：文書の構造化、不要データの除外、アクセス権の確認
- ベクトル化環境（Embedding）：文書をベクトル化する仕組み（例：OpenAI Embedding API）
- ベクトルDB：AISS、Weaviate、Pineconeなどのベクトル検索エンジン
- LLM連携：GPT-4などの生成AIとの接続（APIキー、モデル選定）
- UI/インターフェース：チャット形式やQA画面など、ユーザーが使いやすいUI設計
- セキュリティ設計：アクセス制御、ログ管理、社内ネットワークとの連携

### 3. 検証・導入

- 環境構築：ベクトルDB構築、Embedding処理、LLM連携、UI環境、セキュリティ設定
- POC（検証）：小規模な文書でRAGの動作確認、回答精度の評価
- 本番テスト：必要全文書によるRAGの動作確認、回答精度／レスポンス／安定性の評価
- 導入展開：部署単位で展開、利用者教育、フィードバック収集
- 運用：新たな文書更新時の再Embedding、モデルの改善、ログ分析など

## ② RAG型生成AI ～社内ノウハウ情報をベクトルDBに格納する流れ

### ① 文書の準備・整理

- ↓
- 対象文書の選定 : PDF、Word、HTML、Markdownなど
  - 不要情報の除去 : 古い版、重複、個人情報など
  - 構造化の検討 : 章・節・項目ごとに分割すると精度向上

### ② 文書の分割 (Chunking)

- ↓
- 長い文書はそのままでは扱えないため、**適切なサイズに分割** (例 : 500～1000文字程度)
  - 分割単位は「段落」「セクション」「見出し」などが一般的

### ③ Embedding (ベクトル化)

- ↓
- 各チャンク (分割された文書) を**Embeddingモデル**に通して、ベクトルに変換
  - 使用例 : OpenAIのtext-embedding-3、Cohere、SentenceTransformersなど

## ② RAG型生成AI ～社内ノウハウ情報をベクトルDBに格納する流れ

### ④ ベクトルDBへの格納

↓ 生成されたベクトルと、元の文書（またはメタ情報）をベクトルDBに保存  
代表的なベクトルDB： **FAISS**（軽量・ローカル向け） **Weaviate**（クラウド対応・メタ情報管理が強い）  
**Pinecone**（スケーラブル・商用向け）

### ⑤ 検索・生成連携

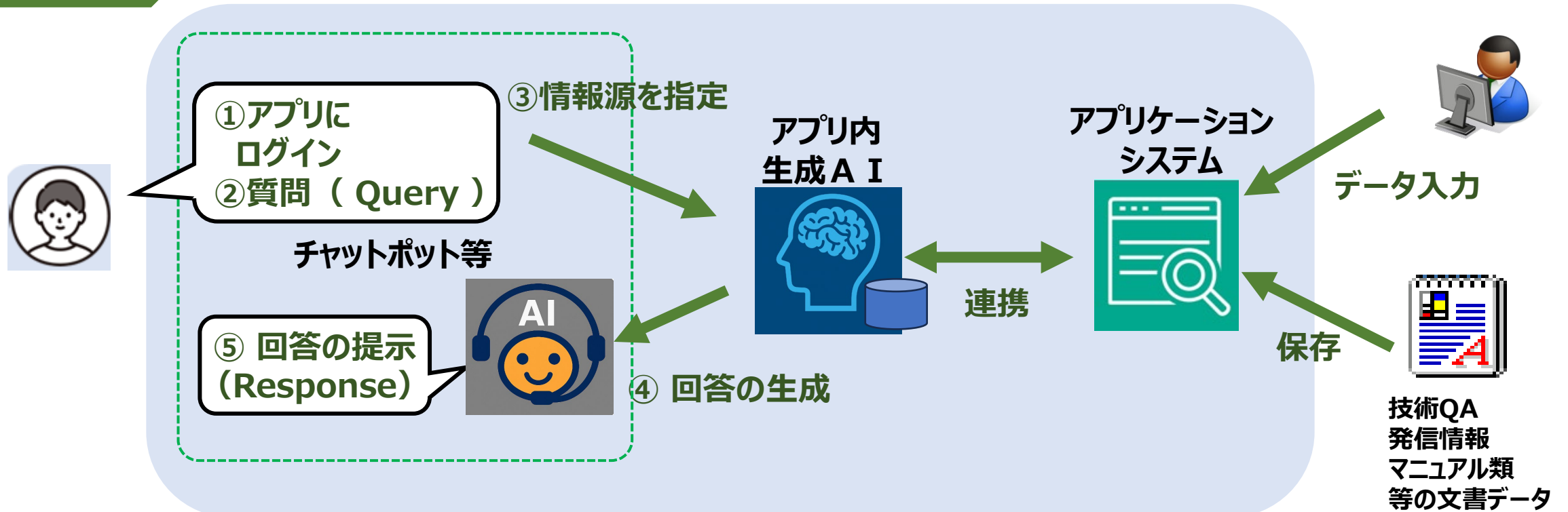
質問文もEmbeddingしてベクトル化  
ベクトルDBから意味的に近い文書を検索  
検索結果をLLMに渡して、自然文で回答を生成

RAG導入には、社内文書の整理、ベクトル化、生成AIとの連携、UI設計など複数の技術要素が必要です。まずはPoCで効果を確認し、段階的に設計・構築・展開を進めることで、業務に適した形で導入できます。**専門ベンダーの支援を受けることで、設計や運用の負荷を軽減することも可能です。**

### ③ アプリ内生成AI 一般的構成

社内の特定ファイルをアプリ内に保存する、またはアプリ内に入力した社内情報をもとに、組み込まれた生成AIの機能を使って質問すると、自然文による回答を得られる仕組みです。**RAG型生成AIのように検索環境やモデル連携を自社で構築する必要はなく、アプリに標準搭載された生成AI機能として、手軽に利用できます。**

#### 仕組み



# 各ベンダーの生成活用ソリューション事例

ソリューション名	提供ベンダー	ソリューション内容（概略）	更新日	リンク
Box AI	Box Japan	Boxクラウドストレージに集約・統合された非構造化データの価値をAIエージェントにより最大限に活用	2026/4/30	<a href="#">P75</a>
NEC Generative AI	日本電気	NEC提供の業務アプリケーション（Obbligato:PLM MegaOak:医療）などへの生成AI組み込み	2026/4/30	<a href="#">P80</a>
本音がわかるAI×体験分析プラットフォーム	ベリサーブ	顧客の声データ(大量のコメントやレビュー)をAIで構造的に分析し、顧客起点の意思決定ができる次世代ツールになります。	2026/4/30	<a href="#">P83</a>
次世代型BPS	NTTデータ・ウイズ	従来のBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）に生成AIを活用してAIが自律的に処理する活用事例	2026/4/30	<a href="#">P87</a>
Glean	アシスト	企業内の情報を横断検索し、AIで知識を活用できるエンタープライズ検索ソリューション	2026/4/30	<a href="#">P91</a>

順不同

前株・後株省略

# 各ベンダーの生成活用ソリューション事例

ソリューション名	提供ベンダー	ソリューション内容（概略）	更新日	リンク
Joule	SAPジャパン	新しいUXとして、ビジネス機能に組み込まれているAIエージェント。次のアクションを提案し、複雑なワークフローを自動化します	2026/4/30	<a href="#">P94</a>
SVF 他	ウイングアーク1st	生成AIと当社技術との連携により帳票設計や帳票活用を支援。MCP連携でAIからの自律的な帳票業務処理を実現。	2026/4/30	<a href="#">P97</a>
intra-mart Accel Platform	NTTデータ イントラマート	intra-martの生成AI連携機能『IM-Copilot』は、セキュリティ・権限管理、データ連携、サービス連携をまとめて提供	2026/4/30	<a href="#">P101</a>
DANA	フェンリル	専門家の知識とAIの直感を融合し「正確性」「一貫性」を実現させる高度なソリューション	2026/4/30	<a href="#">P104</a>

順不同

前株・後株省略

# 5. 生成AI導入のための準備/施策

- ① 生成AI導入検討
- ② 導入にあたっての社内体制
- ③ 生成AI活用にあたっての社内文書
- ④ 生成AIの社内導入手順
- ⑤ 内部統制の考え方
- ⑥ データ保全とセキュリティ
- ⑦ 補助金の種類と申請方法

生成AIを本格的に社内で導入/活用するためには以下の準備事項は必須です。  
ここではそれぞれについて解説します

タイトル	内容	詳細
① 生成AI導入検討	目的に合致した生成AI環境の導入検討	検討すべき内容を確認・精査
② 導入にあたっての社内体制	経営層、関連組織の体制例	各チームの役割と活動ポイント
③ 生成AI活用にあたっての社内文書	社内で生成AIを一般開放するときに一般的に必要なとされている規程やガイドライン	標準的な文書例を記載します。ここから各社のビジネス形態、実情に合わせて改訂してください
④ 内部統制の考え方	社員が自主的に生成AIを利用したいとIT部門に申請してきたときのIT部門が示すべき考え方	Web等で社員が見つめてきた生成AIを利用したいと言ってきたときのStop/Goの観点を整理します。
⑤ 生成AIの社内導入手順	IT部門が全社に生成AIを展開する手順を、既に展開済みの企業のノウハウを集約	導入手順や、導入の際に最初から考えておくべきこと、推進体制について記述しています
⑥ データ保全とセキュリティ	生成AIを会社として利用拡大するときに確認すべきデータセキュリティ。機密情報漏洩リスク	社内導入にあたってIT部として契約やアーキテクチャの確認項目を整理します
⑦ 補助金の種類と申請方法	生成AIの導入に際して利用できる補助金等を、整理します	各補助金の対象範囲や、申請方法、留意すべきことについて解説します

生成AIを導入活用する際には、多くの生成AIの中から、情報システム部門あるいは担当者が社内の活用に適したツールを選定

## 検討すべき項目

### 1. 目的と用途:

生成AIを導入する目的や具体的な用途を明確にすることが重要です。例えば、業務効率化、データ分析、カスタマーサポートなど

### 2. 技術的専門性:

社内にAIの専門知識を持つ人材がいるか、または外部の専門家と協力する必要があるかを考慮します

### 3. カスタマイズ性と拡張性:

生成AIがどの程度カスタマイズ可能か、将来的な拡張性があるかを確認します。特に、特定の業務プロセスに合わせたカスタマイズが可能かどうか重要です

### 4. セキュリティとプライバシー:

データのセキュリティとプライバシー保護がどの程度確保されているかを確認します。特に、機密情報を扱う場合は重要です

### 5. 既存システムとの融合:

既存の業務システムやツールとの融合が容易かどうかを確認します。例えば、Microsoft 365やSalesforceなどとの連携がスムーズに行えるか

## 検討すべき項目

### 6. コストと活用状況:

導入コストや運用コストを試算します。長期的な視点でのコストと活用状況のモニタリングも重要です

### 7. ユーザビリティ:

実際に使用するユーザーにとって使いやすいかどうか、インターフェースが直感的かどうかを確認します

### 8. サポートとトレーニング:

ベンダーからのサポート体制やトレーニングプログラムが充実しているかを確認します。特に、導入初期のサポートが重要です

### 9. 導入事例と実績:

他の企業での導入事例や実績を参考にします。特に、自社と同じ業界や規模の企業での成功事例があると安心です

## ② 導入にあたっての社内体制

### 【企業規模に応じた社内体制の重要性】

生成AIの導入にあたっては、技術面だけでなく、**社内体制の整備が不可欠**です。特に、情報セキュリティ、法令遵守、利用ガイドラインの策定、現場への浸透といった観点から、**企業規模に応じた適切な組織構造を構築することが重要です。**

数万規模の企業では、戦略策定・ガバナンス・実行・現場推進といった役割を分担した複数の専門チームを設置することが一般的です。一方、数千人以下の企業では、IT部門の規模や専門知識の制約を踏まえ、シンプルかつ実効性のある体制が求められます。

本ガイドラインでは、企業規模に応じた社内体制の例を示し、生成AI導入を円滑に進めるための参考モデルを提示します。

## ② 導入にあたっての社内体制（数万人規模の企業）



### 1. 戦略チーム（経営・DX推進部門）

**役割**：生成AI導入の目的を明確化（業務効率化,顧客体験改善,コスト削減など）

**構成**：経営層（CIO/CTO、DX責任者）,事業部門代表（営業,製造,サービスなど）

**ポイント**：ROI試算KPI設定（工数削減率,顧客対応時間短縮）リスク管理（情報漏洩,コンプライアンス）



### 2. ガバナンスチーム

**役割**：全社横断のルール策定と技術標準化

**構成**：IT部門（クラウド,セキュリティ）、法務・コンプライアンス、データガバナンス担当

**ポイント**：利用ポリシー（プロンプト管理,外部API利用制限）,モデル選定基準（社内データ活用型,外部API型）  
教育プログラム（プロンプト設計,リスク認識）



### 3. 実行プロジェクトチーム

**役割**：PoC→本格導入→運用改善

**構成**：各業務部門の担当者（現場課題を把握）,データエンジニア,AIエンジニア,UI/UXデザイナー

**ポイント**：小規模PoCで効果検証（例：FAQ自動化,レポート生成）,機能追加と改善サイクル（アジャイル型）



### 4. 現場活用促進チーム（ユーザー教育・サポート）

**役割**：利用促進と定着

**構成**：各部門の「AIアンバサダー」制度、ヘルプデスク・FAQ整備

**ポイント**：社内ポータルで事例共有、成果が見える化（ダッシュボード）

## ② 導入にあたっての社内体制（数千人以下の企業）



### 1. コアチーム（既存業務との兼務メンバーで組織化）

**役割**：生成AI導入の基本方針とガイドライン策定（利用範囲、リスク管理）  
社内ポリシー作成（情報漏えい防止、著作権対応）  
外部ベンダーとの連携窓口

**構成**：IT担当者＋業務部門の代表＋法務/コンプライアンス担当



### 2. 現場主導のパイロットチーム

**役割**：利用ガイドラインの改善提案  
小規模なPoC（例：FAQ自動化、文書要約）  
教育・研修の提供  
成果を社内共有し、成功事例を作る

**構成**：現場の業務改善に関心のあるメンバー（営業、企画、バックオフィスなど）



### 3. 外部パートナーの活用

**役割**：初期構築や教育を支援  
**構成**：AI専門人材を社内で確保するのは難しい場合  
クラウドサービスや外部 S I e r と契約

### ③ AI利活用にあたっての社内文書（全体像）

- ユーザー企業が生成AIを利活用する際に必要となる**社内文書は主に4種類**あります
- 一般的には「**③生成AI利用規定**」のみを制定することが多いです

社内文書の種類	対象者
①AI利活用ルール (原理原則・大方針)	全社員
②生成AI組込開発 ルール	生成AIモデルの 組込システム開発者
③生成AI利用 規定	生成AI サービス・システムの 利用者
④生成AI利用 マニュアル	生成AI サービス・システムの 利用者

#### 【社内文書の必要性】

生成AIの業務利用を推進するにあたり、まず規定やルールを作成する必要があります

#### 1. リスクコントロールのため

生成AIは、誤情報（ハルシネーション）を出力する可能性があり、ユーザーにその危険性や回答には検証が必要であることを明示し、業務判断ミスを防止する必要があります

#### 2. 法令・コンプライアンス対応のため

生成物の二次利用や外部公開では注意が必要です。ガイドラインにより責任所在（最終責任は人が負う）を明確にし、法令・社内規程の順守を徹底できます

#### 3. 現場で「迷わず使える」状態をつくるため

生成AI活用が進まない理由に、ユーザーが「使っていないかわからない」「どこまで利用していいかわからない」という“恐れ”があります。これを払しょくし、禁止するのではなく、明確にすることで促進できます

## AI利活用ルール（原理原則・大方針）

### 第一条 人間中心

AIは人間の意思決定を補完する存在であり、最終責任は常に人間が負う。

### 第二条 公平性

性別・年齢・人種・国籍・信条などによる不当な差別や偏見を助長しない。

### 第三条 透明性

AIが生成・判断に関与したことを明示し、出力の限界を説明できるようにする。

### 第四条 責任

AIの成果物や利用結果に対する責任は利用者と組織にある。

### 第五条 安全性・セキュリティ

個人情報や機密情報を保護し、悪用や不正利用を防ぐ。

### 第六条 コンプライアンス

法令・規制・契約を遵守し、知的財産権、特に著作権を尊重する。

### 第七条 倫理

社会的規範や人間の尊厳を重視し、AIが人を害する方向に利用されないようにする。

### 第八条 共創と価値創造

AIを単なる効率化ツールに留めず、人と共に新たな価値を生み出す。

### 第九条 教育とリテラシー

全ての社員がAIを正しく理解し、主体的に活用できるよう継続的に学習する。

### 第十条 進化と適応

技術と社会の変化に応じ、原則や仕組みを不断に見直し、より良いAIとの共生を目指す。

## 1.セキュリティ・データ保護

- 機密情報（顧客データ、認証情報）をAIモデルに直接送信しない
- API通信は暗号化（HTTPS/TLS）を必須とする
- モデル利用時のログ管理を徹底し、個人情報を含めないようにする

## 2.モデル選定と利用範囲

- 公開モデル利用時は、ライセンス・利用規約を確認
- 社内ポリシーで「生成AIを使うべき領域」と「使わない領域」を明確化
- 高リスク業務（法務判断、個人情報処理）はAIの自動判断を禁止

## 3.品質保証

- 生成結果は必ず人間によるレビューを経て承認
- バージョン管理（Gitなど）で生成コード・プロンプトを記録
- テスト工程にAI生成部分を含め、ユニットテスト・統合テストを実施

## 4.プロンプト設計と再現性

- プロンプトは標準化し、再現性を確保
- 機密情報を含まないテンプレートを作成
- プロンプト改善の履歴を残し、品質向上を継続

## 5.法令・規格遵守

- 個人情報保護法、GDPRなどの法令に準拠
- 業界規格（ISO、IECなど）に沿った設計を確認

## 6.運用・責任分担 責任分担

- AI生成結果の最終責任は人間にあることを明記
- 社内で「AI利用責任者」を設定
- 利用ログを定期的に監査し、誤用を防止

## 生成AI利用規定

### 1. 目的

本利用規定は、社内の利用者が生成AIを業務で安全かつ効果的に活用するための基本的なルールを定め、生成AI活用による生産性の向上や価値創出と、情報セキュリティ確保・コンプライアンスを両立することを目的とする。

### 2. 利用範囲

本利用規定は、社内で利用するすべての生成AIツール(ChatGPT 等)を対象とする。また業務での利用だけでなく、学習・研究目的での利用も対象とする。

### 3. 禁止事項

- 情報入力禁止（※禁止対象か否かと禁止する理由は企業により異なる）
  - 【情報】 個人情報、顧客情報、機密情報
  - 【理由】 入力情報がAIモデルに再学習されるサービスを利用しているため
- 不適切な利用の禁止
  - 著作権を侵害するコンテンツ生成・再利用
  - 差別的・攻撃的な表現の生成
  - 業務外での過度な利用

### 4. 利用上の注意点

- AIの出力は一次情報ではないため、必ず人間による確認・検証を行うこと
- 出力内容の誤りやバイアスが含まれる可能性を常に念頭に置くこと
- 外部共有する資料に利用する際は、必要に応じて出典・引用等を明示すること

### 5. 活用推奨例

- 業務文書作成（議事録、メール文案、報告書の叩き台 等）
- データ分析における仮説立案や整理
- プログラミングやコードレビューの補助
- 翻訳や自己学習の補助

### 6. 責任と対応

- 利用者は、生成AIの出力を鵜呑みにせず、最終成果物の正確性と責任を負う。
- 誤用や情報漏洩が発生した場合は、速やかに上長および情報セキュリティ担当へ報告すること。

### 7. 教育と改善

- 社員は、定期的なAIリテラシー研修を受講する。
- 利用事例や改善点を共有し、ガイドラインを継続的に見直す。

### 8. 付則

- 本ガイドラインは 202x年x月x日 から施行する。
- 運用状況に応じて随時改訂する。

# ③ー④ 生成AI利用マニュアル（サンプル）

生成AIは従前のシステムと違い、自由に質問することが可能です。

逆に言えば、従前のシステムのように「ここにはこれを入力する」ことに慣れているユーザーは、どう使えばいいのか戸惑うこともしばしばです。

ゆえに、そのスタートアップ時には聞き方（プロンプト）のガイドは必要です。

以下は、その基本的な聞き方（プロンプト）の記述で意識することが推奨される項目の例です。

これを参考に自社の事業にあうガイドを作成ください

## 出力の目的を明確にする

文章内容がより目的に近いものになります。

（例）「新製品の社内説明資料を作成する  
わかりやすい概要を作してほしい」

## 出力形式を指定する

箇条書き、リスト、文章などが指定できます。

（例）「5項目の箇条書きで、各項目に短い  
説明をつけてください」

## 必須要素やキーワードを指定する

回答の抜け漏れが防止できます。

（例）「文章には“透明蒸着バリアフィルム”と  
いう用語を用いてください」

## 対象読者や利用シーンを指定する

語調や専門度の調整ができます。

（例）「技術的に詳しくないお客様向けに  
作成してください」

## 制約条件を与える

文字数やトーン、禁止事項を指定できます

（例）「300文字以内で、カジュアルな文章  
を意識し作成してください」

## 期待する出力形式を指定する

サンプルを提示するとイメージが伝わります

（例）「以下のような形式で作ってください  
1. 項目名  
a. 説明文」

# ④ 生成AIの社内導入手順

社内で生成AIを活用するためには以下の導入プロセスを踏みます

## 利用目的の定義

誰が、どういう目的で、利用するかを言語化します。ここでどれだけ具体的に定義できるかが、生成AI導入の成否を左右します

## 現状の業務フローの把握

現行の業務フロー（思考プロセス）を洗い出し、どの部分をAI化するかターゲットを決めます

### 【社内のデータの活用】

## 活用するデータの選定と整備、RAGサンプル構築

社内で参照したいデータ（営業関連文書、FAQ、技術情報 etc）の選定と、サンプルデータのデータフォーマットの統一、メタデータ付与、不要情報の除去を行ったうえで、小さいスケールでRAG構築をします

### 【社外（インターネット）のデータの活用】

## 社内利用できる生成AIの提示

社内で利用できる生成AI（Copilotなど）の提示と、それぞれの特徴、利用上の注意などのレクチャーを行います。

## PoC（概念実証）の実施と、効果測定指標の設計

小さなユースケースから初めて、実運用に近い形で、効果や課題を検証します。  
また、その際に想定利用人数や利用頻度、利用効果の指標を設定します

## 運用・拡張の計画

試行・改善を繰り返しながら、社内利用の拡大体制や、ベンダー協業体制の構築など、技術と組織両面で運用体制を構築します

## ④ 生成AIの社内導入手順 ～効果測定

生成AIの社内活用の展開にあたっては、  
そのスタート時から効果測定の仕組みを構築しておくことが重要です

POINT!



### 利用人数/頻度の把握

将来的には社内に複数の生成AI（RAG）が併存する形になるはずですが。

それぞれの生成AIにアクセスした履歴を所属組織、職位も含めたユーザーごとに集計する仕組みが必要です

単純なアクセス回数ではなく、「使った日数」に変換した集計がオススメ

POINT!



### 正答率/有効度の把握（人の感覚）

生成AIの回答は曖昧さを含みます。この曖昧さを含んだ回答が有効かどうかを判別するのは

「人間の感覚」に依拠します。このフィードバックを適宜取得できる仕組みが必要です

一般的なのは、回答取得後に「いいね」「残念」のリアクションをもらうこと。

## ④ 生成AIの社内導入手順 ～活用拡大体制

生成AIの社内活用の展開にあたっては、  
そのスタート時から効果測定の仕事みを構築しておくことが重要です

POINT!



### 正答率/有効度の把握（評価フレームワーク）

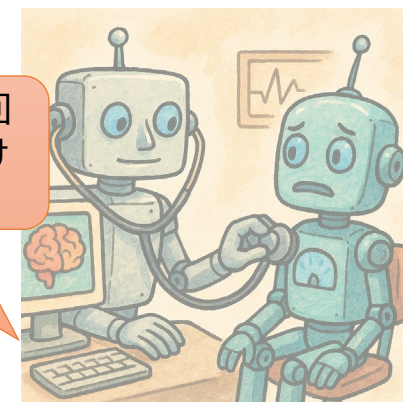
生成AIの回答をロジックで評価する方法もあります。

### RAGAS (Retrieval-Augmented Generation Assessment)

LLM（大規模言語モデル）を活用した生成AIの自動評価フレームワーク

指標名	内容
Faithfulness（忠実性）	生成された回答が検索結果に基づいているか
Answer Relevance（回答の関連性）	回答がユーザーの質問に的確に関連しているか
Context Precision（文脈の精度）	検索された文書が質問に対してどれだけ正確か
Context Recall（文脈の再現率）	必要な情報が漏れなく検索されているか
Semantic Similarity（意味的類似度）	回答と理想的な回答（Ground Truth）の意味的な一致度

生成AIで回答が出た後「この回答をRAGASで評価して」と聞けば、採点ができますよ！



自動でRAGASデータを収集するなどの仕組み導入にあたっては専門のベンダーにご相談されるとよいです。

## ④ 生成AIの社内導入手順

### 社内で生成AIを展開するには、現場とのリレーションづくりは必須です

生成AIの導入はスモールスタートで、試行錯誤を繰り返しながら、現場とともに成功体験を積み上げて成長させます。

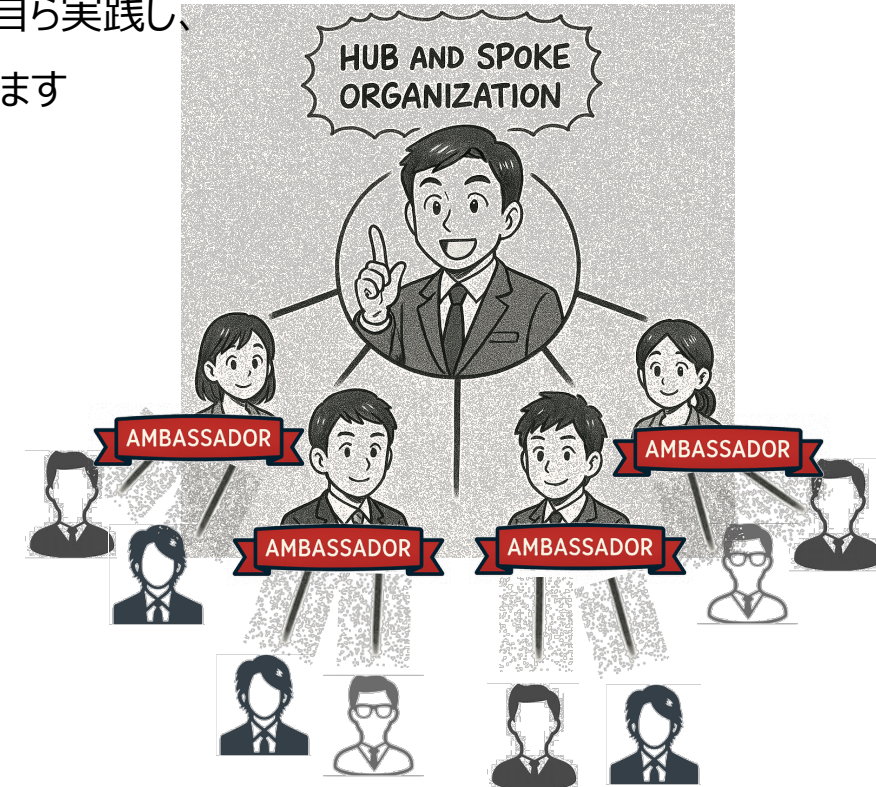
このスタイルの導入に最も適しているのは“**ハブ アンド スポーク型**”の体制。

すなわち、各現場（営業/物流/生産/研究開発/スタッフ etc...）にアンバサダー（大使：自ら実践し、魅力を発信する人）を配置し、その人たちとIT部門が一体となって導入/活用/展開を行います



#### アンバサダーとしてお願いしたい人のキャラクター要件

- ・新しいもの好き/ITに対してアレルギーがない
- ・現場業務にある程度精通しており、かつ、その現場に影響力がある
- ・失敗を恐れない。失敗しても前向きな姿勢で臨める
- ・コミュニケーション能力が高い
- ・会社や、自ら属する部署に対する貢献意識が高い



# (参考) RAG型生成AI導入計画サンプル

## 1. 準備 (1か月目)

目的: 方針策定と体制構築  
アクション: コアチーム設置 (IT + 業務 + 法務)  
利用ポリシー・ガイドライン作成  
外部パートナー選定 (クラウド、コンサル)

## 2. 教育・リテラシー強化 (2か月目)

目的: 全社的な理解と安全利用の徹底  
アクション: 全社員研修 (生成AIの安全な使い方)  
部門別ワークショップ  
社内FAQ整備

## 3. RAG環境構築 (3~4か月目)

目的: 検索 + 生成の基盤を整備  
アクション: 社内データ収集・整備 (ドキュメント、FAQ)  
ベクトルDB構築 (Azure AI Searchなど)  
セキュリティ設定 (認証、権限管理)  
モデル統合 (OpenAI + 検索層)  
初期テスト (精度・パフォーマンス)

## 4. パイロットプロジェクト開始 (5~6か月目)

目的: RAGを活用した業務PoC  
アクション: 2~3部門でPoC (営業提案書、FAQ自動化)  
成果評価 (工数削減、品質向上)  
社内共有会で事例発表

## 5: 評価・改善 (7か月目)

目的: 導入効果の検証と改善  
アクション: PoC結果分析、ROI試算  
ガイドライン・教育内容更新  
次フェーズ対象業務選定

## 6: 本格展開準備 (8か月目)

目的: スケールアップの基盤づくり  
アクション: 社内AIポータル整備  
標準ツール選定 (Azure OpenAI、Copilot)  
AI活用推進チーム設置

# ⑤ 内部統制の考え方

## 1. 内部統制の目的と必要性

### リスク低減

情報漏洩、著作権侵害、コンプライアンス違反を防ぐ

### 透明性確保

誰が、どのAIを、どのデータで使ったかを追跡可能にする

### 業務効率と安全性の両立

禁止事項だけでなく、推奨利用範囲を明示し、安心して活用できる環境を整える

## 2. 組織体制

IT担当（セキュリティ・インフラ）、法務・コンプライアンス担当、データガバナンス担当  
業務部門代表、内部統制部門などで構成

## 3. 内部統制の実施

ガイドラインに基づいた利用規定を社内教育し徹底、責任を明確にしたうえで、利用ログなどを定期的に行う

# 【参考】生成AI利用時の著作権侵害について

- 生成AIを利用する際の知的財産権侵害については、**著作権侵害だけに注意**すれば十分です

知的財産権	侵害の定義	侵害の具体例
著作権	著作権者の許可なく、著作物（小説、音楽、絵画、プログラムなど）を複製、公衆送信、翻案、頒布などすること。著作権は創作の時点で自動的に発生し、生成AIで生成された著作物は指示入力した者が著作権者となる。著作権侵害の判断基準は「類似性(似ている)」と「依拠性(元になっている)」の2つで、原則「親告罪」である	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>既存のキャラクターと酷似した画像をAIで生成し利用</b></li><li>● 漫画をスキャンして無断でネットにアップロード</li><li>● 音楽を許可なくコピーして販売</li><li>● 他人のプログラムコードを丸ごとコピーし自作アプリに組込</li></ul>
特許権	特許権者の許可なく、特許発明（新規性・進歩性のある技術的アイデア）を業として実施すること。ここで「実施」には製造・使用・販売・輸入などが含まれる	<ul style="list-style-type: none"><li>● A社特許の新型バッテリー技術をB社が無断で製造・販売</li><li>● 特許で保護された医薬品の製造方法を、許可なく使って薬を作る</li></ul>
実用新案権	実用新案権者の許可なく、登録された「物品の形状・構造・組合せ」に係る考案を業として実施すること。特許よりも「小発明」「アイデア商品」向けの権利	<ul style="list-style-type: none"><li>● 実用新案登録された「折りたたみ傘の改良構造」を、他社がコピーして販売</li><li>● 特殊な形状のペットボトルキャップのアイデアを無断で利用</li></ul>
意匠権	意匠権者の許可なく、登録された意匠（物品・建築・画像のデザイン）を業として実施すること。対象は「見た目のデザイン」であり、美感を与える形態が保護される	<ul style="list-style-type: none"><li>● 登録意匠のあるブランドバッグの形を真似して販売</li><li>● ゲームUIの登録画像意匠を無断で使用</li></ul>
商標権	商標権者の許可なく、登録された商標を「指定商品・サービス」について使用すること。商標はブランド名やロゴを保護する	<ul style="list-style-type: none"><li>● 他社の登録商標「NIKE」のロゴを勝手に使った靴を販売</li><li>● 他社の登録商標「スターバックス」を看板に掲げて喫茶店を経営</li></ul>

# ⑥ データ保全とセキュリティ

## 1. 目的

生成AI利用において、企業の機密情報・個人情報・顧客情報を保護する  
データの完全性、可用性、機密性を維持し、外部への不正流出を防止する

## 2. データ保全の考え方

### 入力データ管理

- ・機密情報・個人情報・未公開財務情報はAIへの入力禁止
- ・社内データを利用する場合は暗号化・アクセス制御を徹底

### バックアップと復旧

- ・生成AI関連のログや出力データは定期的にバックアップ
- ・災害復旧計画（DR）にAI利用データも含める

### データライフサイクル管理

- ・利用目的終了後はデータを適切に削除
- ・保管期間と削除ルールを明文化

## ⑥ データ保全とセキュリティ

### 3. セキュリティ対策

#### アクセス制御

- ・利用権限をロールベースで設定（管理者・利用者・監査者）

#### 通信の安全性

- ・API接続やクラウド利用時はTLS暗号化を必須

#### ログ管理

- ・誰が、いつ、どのAIを利用したかを記録し、監査可能にする

#### 脆弱性対策

- ・外部AIサービス利用時はセキュリティ評価を実施
- ・定期的なパッチ適用と脆弱性スキャン

### 4. リスク低減策

#### モデル利用ポリシー

- ・外部AIサービスへの学習データ提供はオプトアウト設定

#### 出力検証

- ・著作権侵害や誤情報を防ぐため、ファクトチェックを義務化

#### 教育・啓発

- ・社員向けに「安全なAI利用」研修を定期実施

## ⑦ 補助金の種類と申請方法

名称	概略	補助金額	申請方法（2025年度例）	所管省庁
ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金	中小企業者が革新的な新製品・新サービス開発の事業のために必要な設備投資の一部を補助する	750万～2500万円 従業員規模	年2回公募 25年7月25日締切	独立行政法人中小企業基盤整備機構
IT導入補助金	業務の効率化やDXの推進、セキュリティ対策に向けたITツール等の導入費用をサポート	最大450万円	第3次申請締切日7月18日 第4次申請締切日8月20日 第5次申請締切日9月22日	中小企業庁
中小企業省力化投資補助金	人手不足解消に効果のあるロボットやIoTなどの製品や設備・システムの導入費用をサポートします。	最大1億円	25年6月	中小企業庁
中小企業成長加速化補助金	売上高100億円を目指す成長志向型の中小企業の大胆な設備投資を支援します	5億円	25年6月9日締切	独立行政法人中小企業基盤整備機構
新事業進出補助金	既存の事業とは異なる、新市場・高付加価値事業への進出にかかる設備投資をサポートします。	最大9,000万円	25年7月10日締切	独立行政法人中小企業基盤整備機構
事業承継・M&A補助金	中小企業の生産性向上、持続的な賃上げに向けて、事業承継に際しての設備投資や、M&A・PMIの専門家活用費用等を支援します	1,000万円		
DX認定制度	DX認定により日本政策金融公庫から設備投資に対し、低利(0.6%)の融資を受けられる		いつでもオンライン申請	経産省商務情報政策局

詳細は、経済産業省の[ものづくり補助金 | 経済産業省 中小企業庁](#)をご確認ください

# ⑦ 補助金の種類と申請方法

## ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金

### 公募要領

### (第20次公募)

## ものづくり補助金の目的

ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金は、成長志向の中小企業者等が、物価高や賃上げ・最低賃金引上げ等の事業環境変化に対応し、“稼ぐ力”を強化するために、**革新的な新製品・新サービス開発や海外需要開拓を行う事業のために必要な設備投資等**に要する経費の一部を補助する事業を行うことで、中小企業者等の生産性向上を促進し経済活性化を実現することを目的とします。

**会社全体の事業計画に沿い、補助事業を遂行の上、事業計画期間において付加価値額や従業員の賃金等を増加させる事業者を支援します。**

# ⑦ 補助金の種類と申請方法

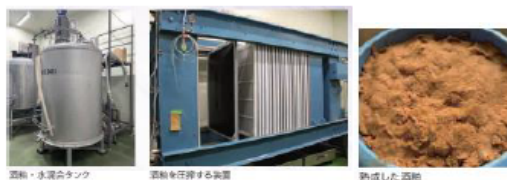
## 補助上限額・補助率等

### 製品・サービス高付加価値化枠

### グローバル枠

従業員規模	補助上限額	補助率	従業員規模	補助上限額	補助率
5人以下	750万円	中小企業1/2、 小規模企業・ 小規模事業者及び 再生事業者2/3	従業員規模毎の 区切り無し	3,000万円	中小企業1/2、 小規模企業・ 小規模事業者2/3
6～20人	1,000万円				
21～50人	1,500万円				
51人以上	2,500万円				
<b>特例要件 (詳細は17ページ)</b>	大幅な賃上げに取り組む事業者のみなさまには、補助上限額を100～1,000万円上乘せします。 最低賃金の引き上げに取り組む事業者のみなさまには、補助率を2/3に引き上げます。				
<b>革新的な新製品・新サービス開発とは</b>			<b>海外需要開拓を行う事業とは</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客等に新たな価値を提供することを目的に、自社の技術力等を活かして新製品・新サービスを開発することです。</li> <li>単に機械装置等を導入するだけで新製品・新サービスの開発を伴わないものは補助対象外です。</li> <li>また、同業の中小企業者等や同一地域における同業他社において相当程度普及しているものの開発は、新製品・新サービス開発には該当しません。</li> </ul>			国内の生産性を高めるための事業で、以下の4つを指します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>海外への直接投資に関する事業</li> <li>海外市場開拓（輸出）に関する事業</li> <li>インバウンド対応に関する事業</li> <li>海外企業との共同で行う事業</li> </ul> ※各事業ごとに要件がありますので、詳細は7ページをご確認ください。		

活用イメージ1



同地域内の廃棄酒粕を活用し、赤酢を開発。そのプロセスに必要な攪拌機付きタンクや絞り機、ポンプ等を購入。

活用イメージ2



広告制作で培ったデザイン力を活かしてデジタルコンテンツ分野に進出するため、独自の演出効果を組み込めるシステムを開発。

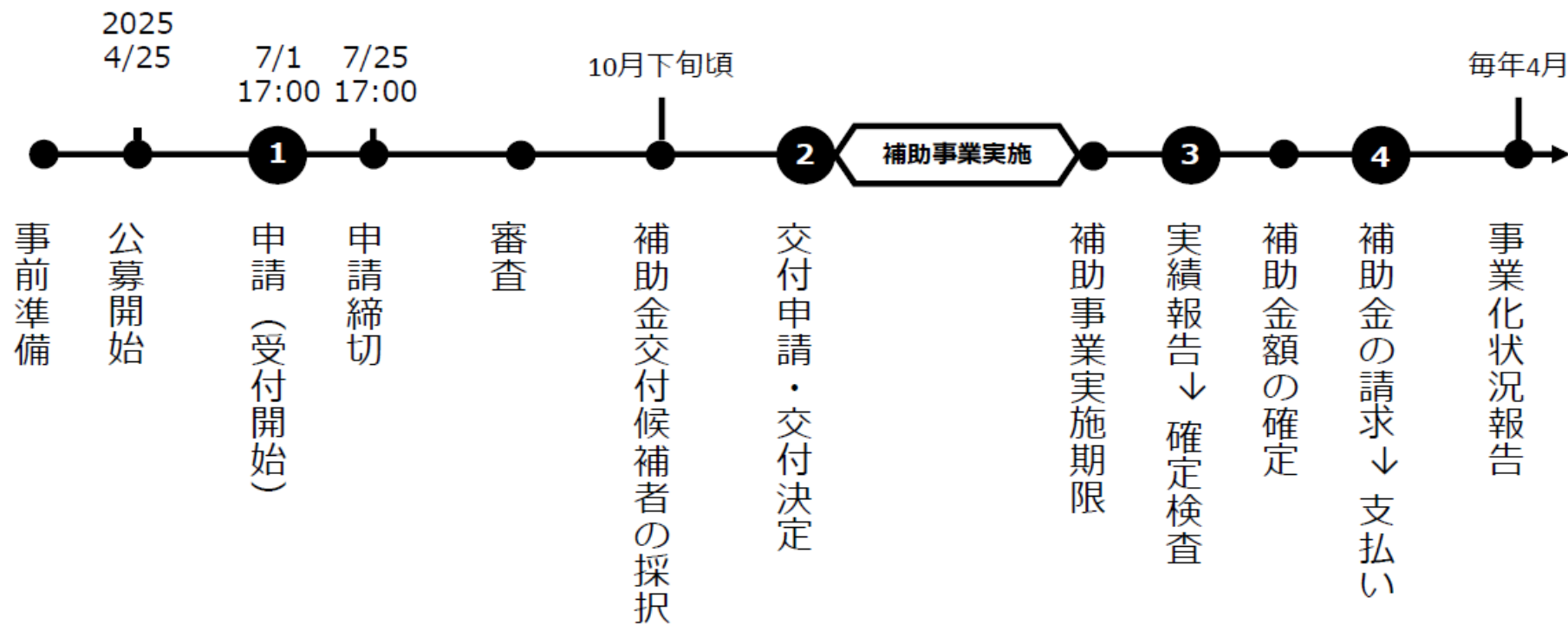
活用イメージ3



日本酒の海外市場獲得のために新商品を開発し、国内工場の製造ラインに自動ビン詰めライン一式を導入すると同時に海外市場に広告宣伝を行う。

# ⑦ 補助金の種類と申請方法

## スケジュール



### 公募申請受付期間 (2025年度例)

- 公募開始 : 2025年4月25日 (金)
- 電子申請受付 : 2025年7月1日 (火) 17:00～
- 申請締切 : 2025年7月25日 (金) 17:00まで **【厳守】**
- 採択公表 : 2025年10月下旬頃予定

# ⑦ 補助金の種類と申請方法

## 3.2 申請方法

- 本補助事業の申請は「[電子申請システム](#)」により受け付けます。
- 申請には「[G ビズ ID \(G ビズ ID プライムアカウント\)](#)」が必要です。G ビズ ID プライムアカウントの発行には一定期間を要しますので、お早めにご準備ください。G ビズ ID に関するお問い合わせは「G ビズ ID ヘルプデスク」へお問い合わせください。  
<G ビズ ID ヘルプデスク>  
TEL : 0570-023-797 (受付時間 9:00~17:00 (土日祝日、年末年始を除く))
- 申請内容については、必ず、申請者自身がその内容を理解し、確認のうえ、申請者自身が申請してください。なお、本補助金の電子申請システムでは代理申請を行うための委任関係を管理する機能は提供しておりません。正当な事由無く申請者自身による申請と認められない場合、当該申請は不採択とします。
- 電子申請マニュアルに従って申請手続を行ってください。また、提出書類は「3.4 提出書類」を参照し、決められたファイル名にするとともに、全て PDF 形式のファイルをアップロードしてください。申請内容や提出書類に不備や不足がある場合、提出書類が所定の場所にアップロードされていない場合、提出書類へのパスワード設定等により事務局にて内容の確認ができない場合などは審査対象となりませんので十分ご注意ください。

# 6. 今後予想される生成AIの発展

# 6 : AIの未来 ~日本製造業における現状の成果~

## AI活用企業における予知保全の成果

経験豊富な技術者の勘と経験に頼っていた設備保全

AI

センサーから収集される膨大なデータをリアルタイムに分析

わずかな異常パターンも見逃さない！

突発的な設備停止による生産ロスの大幅な低減



保全コスト

40% 削減

生産効率

10-15% 向上

品質管理

検出率 200% 向上

政府と民間の大規模投資で  
日本独自のAI活用モデルが！

長年培われた  
現場の暗黙知

+

AI知識なしでも  
AI開発できる環境

=

独自の競争優位性

# 6 : AIの未来 ~AIがもたらすROI (投資対効果) ~

## AIが高いROIを実現できる 3つの理由

### その① 予測によるコスト削減

事後保全  
設備が故障してからの緊急対応



計画保全  
設備が故障する前に保全対応

修理コストの低減

計画外停止による機会損失防止

### その② 意思決定の高速化

人間による分析  
数日から数週間の準備期間



AIによる分析  
リアルタイムかつ多角的分析

市場変化の即時把握

多面的理解による意思決定高度化

### その③ 規模の経済効果

人間による業務  
処理量に応じて人員増加



AIによる運用  
処理量増えてもほぼ固定費化

売上拡大による限界費用ゼロ

処理量増加でもミストラ増加せず

平均 4 ~ 5 % の  
運用コスト削減

生産性  
10% ~ 15% 向上

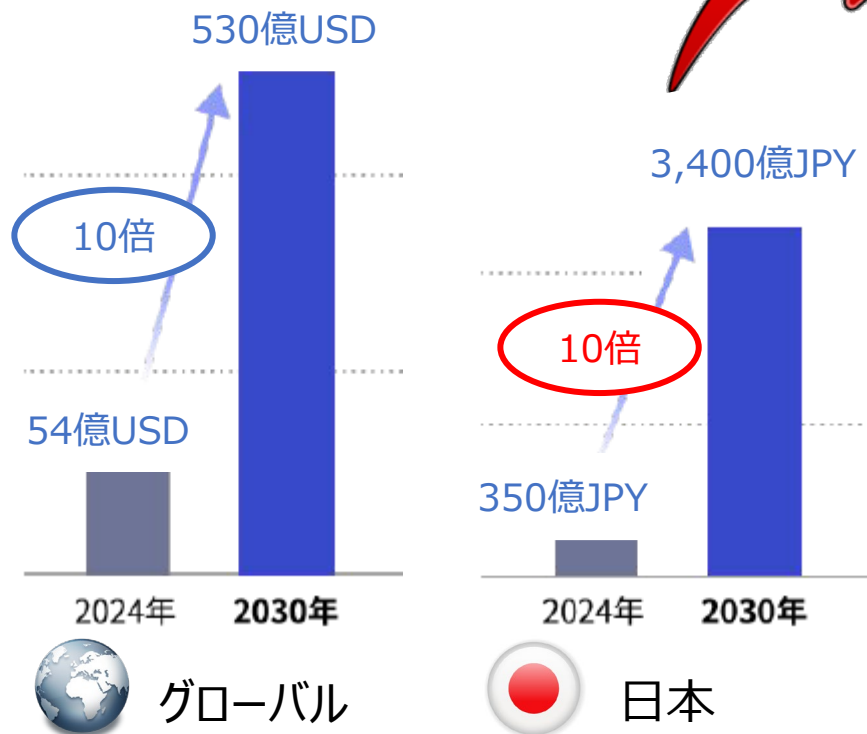


AI導入企業の  
61% がコスト削減実現

AI導入企業の  
53% が収益増加を達成

# 6：今後のAI～日本産業への戦略的インパクトと近未来予測～

AIエージェント市場はこれから一気に拡大



生成AI分野 年平均 成長率

約46%

## 急成長の要因

・MCP (Model Context Protocol)の普及

※詳細後述



LLMから各種システムへの指令方式が統一されれば爆発的にシステムへの活用が推進されます。

・AIエージェント間の連携 (A2A) 技術の進化

※詳細後述

オーケストレーションフレームワークが進化すれば異なるAI間の連携がよりスムーズになり、AIの可能性が拡大されます。

・ドメイン特化型LLMの登場

Ex) 製造業

特定の分野に特化した知識・用語・文脈を深く理解し、より精度の高い応答を生成するように設計されたLLMがそれぞれ進化します。

統合コスト30%減

PJ期間50%減少

通信オーバーヘッド40%削減

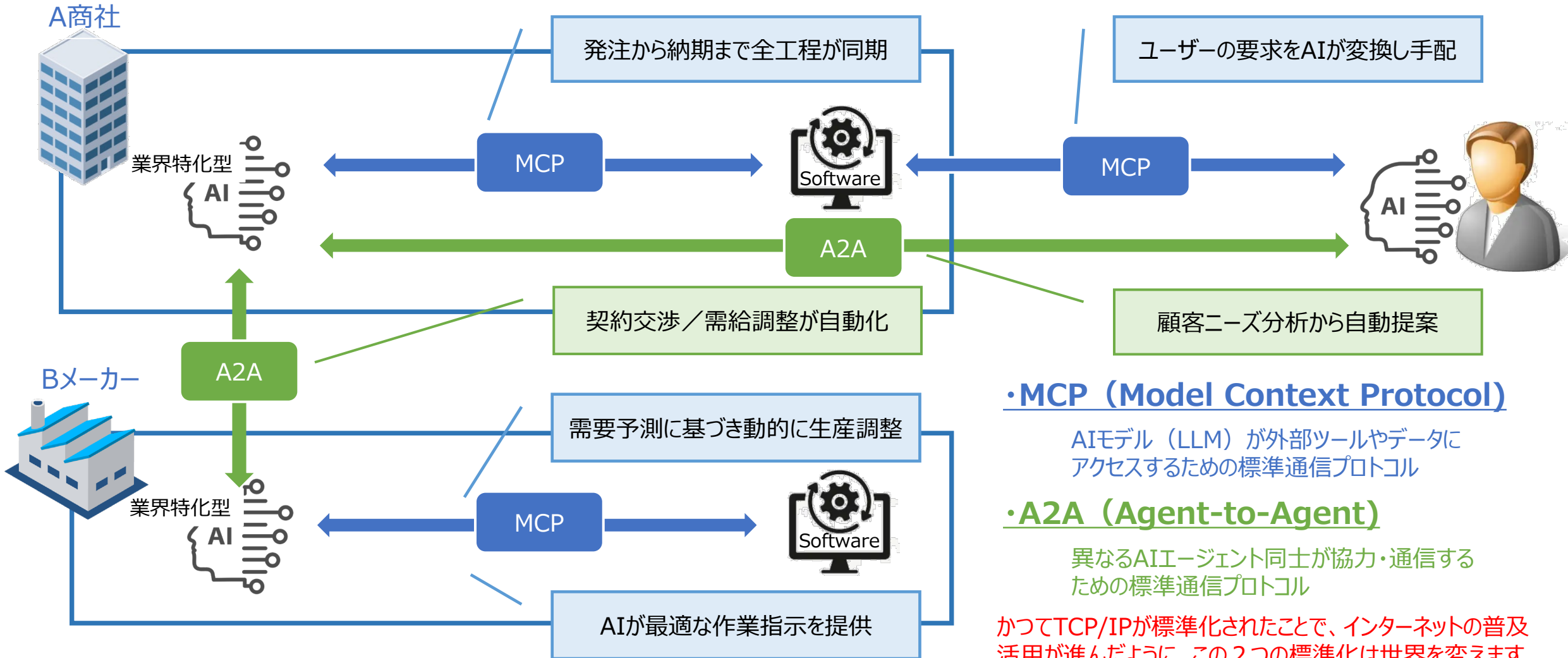
応答遅延20%改善

精度15~30%向上

運用コスト40%削減

# 6：今後のAI～MCP/A2A技術がもたらす企業間連携の革命～

## 2025年～2030年の近未来予測



### ・MCP (Model Context Protocol)

AIモデル (LLM) が外部ツールやデータにアクセスするための標準通信プロトコル

### ・A2A (Agent-to-Agent)

異なるAIエージェント同士が協力・通信するための標準通信プロトコル

かつてTCP/IPが標準化されたことで、インターネットの普及活用が進んだように、この2つの標準化は世界を変えます

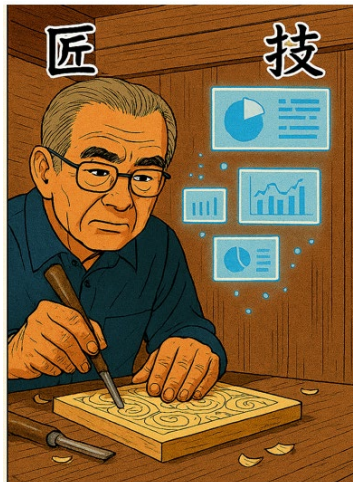
## AIの出現は、すなわち“人間らしさ”への回帰

AIが定型業務を担当し、人間は創造性と戦略立案に専念できる環境が整った。  
で、あるなら、日本が誇る「おもてなし」「匠の技」がこれからのグローバル市場での  
競争優位性になる。

AIを駆使した  
“期待を超える”サービス



AIと職人技の融合で  
新しい“匠の技”



この競争優位性を実現するためにすべきこと：

- ・企業内データの整備、蓄積、それを活用する文化の醸成
- ・新しいスキルセット※の習得／育成、または人財の確保

今、行動を起こすか、それとも時代に取り残されるか。

※ AIオーケストレーター、ヒューマンAI協業デザイナー、エージェント品質マネージャーなど

# 6 : AIの未来 ※参考文献

## AI市場規模・成長率関連

TechSci Research 「Japan Artificial Intelligence Market Report」

<https://www.techsciresearch.com/report/japan-artificial-intelligence-market/24698.html>

Grand View Research 「Japan Generative AI Market Report」

<https://www.grandviewresearch.com/press-release/japan-generative-ai-market-analysis>

Grand View Research 「Japan AI Agents Market Outlook」

<https://www.grandviewresearch.com/horizon/outlook/ai-agents-market/japan>

Statista 「Generative AI - Japan Market Forecast」

<https://www.statista.com/outlook/tmo/artificial-intelligence/generative-ai/japan>

## 技術仕様・プロトコル関連

Anthropic 「Introducing the Model Context Protocol」

<https://www.anthropic.com/news/model-context-protocol>

GitHub 「Model Context Protocol Servers」

<https://github.com/modelcontextprotocol/servers>

Towards Data Science 「Inside Google's Agent2Agent (A2A) Protocol」

<https://towardsdatascience.com/inside-googles-agent2agent-a2a-protocol-teaching-ai-agents-to-talk-to-each-other/>

## 投資・企業動向関連

Microsoft 「Microsoft to invest US\$2.9 billion in AI and cloud infrastructure in Japan」

<https://news.microsoft.com/apac/2024/04/10/microsoft-to-invest-us2-9-billion-in-ai-and-cloud-infrastructure-in-japan-while-boosting-the-nations-skills-research-and-cybersecurity/>

Financial Times/PYMNTS 「SoftBank Plans to Commit \$9 Billion to AI Projects」

<https://www.pymnts.com/artificial-intelligence-2/2024/softbank-plans-to-commit-9-billion-to-ai-projects>

## 政府政策・戦略関連

Nikkei Asia 「Japan to roll out \$65bn in support for chips, AI」

<https://asia.nikkei.com/Business/Tech/Semiconductors/Japan-to-roll-out-65bn-in-support-for-chips-AI>

CSIS 「Norms in New Technological Domains: Japan's AI Governance Strategy」

<https://www.csis.org/analysis/norms-new-technological-domains-japans-ai-governance-strategy>

The Government of Japan 「Japan's Pursuit of a Game-Changing Technology and Ecosystem for Semiconductors」

[https://www.japan.go.jp/kizuna/2024/03/technology\\_for\\_semiconductors.html](https://www.japan.go.jp/kizuna/2024/03/technology_for_semiconductors.html)

## 海外製造業関連

Siemens 「Transform Your Manufacturing with Siemens Smart Factory Solutions」

<https://www.siemens.com/us/en/company/topic-areas/smart-factory.html>

Harvard Business Review 「How AI Is Enabling Self-Learning Factories - SPONSOR CONTENT FROM SIEMENS」

<https://hbr.org/sponsored/2021/12/how-ai-is-enabling-self-learning-factories>

Microsoft 「How AI is helping Siemens and thyssenkrupp bridge skilling gaps in manufacturing」

<https://news.microsoft.com/source/emea/features/how-ai-is-helping-siemens-and-thyssenkrupp-bridge-skilling-gaps-in-manufacturing/>

IIoT World 「Manufacturing with Generative AI: Siemens' Industrial Copilot Revolutionizes Automation」

<https://www.iiot-world.com/artificial-intelligence-ml/artificial-intelligence/siemens-industrial-copilot-generative-ai/>

NVIDIA Blog 「Siemens Makes Factory Floors Smarter With Industrial AI」

<https://blogs.nvidia.com/blog/siemens-industrial-ai/>

※記載の数値や情報は2024年から2025年初頭の各種調査・発表に基づくものであり、市場環境の変化により変動する可能性があります。

本項「巻末：AIの未来」は、

株式会社フェンリル クラウドネイティブ技術部 部長 前垣内健太郎さんにご協力いただいた、原案をもとに作成いたしました



用語	解説
センシングAI	多様なセンサー（カメラ：画像、マイク：音声、温度センサー等）から取得したデータをAIで解析し、環境や対象の状態を認識・判断する仕組み
AIエージェント	特定の目的を達成するために自律的に行動するAIシステムの事
プロンプト	生成AIに対して、文書・画像・コードなどを生成するために与える指示文
Query	モデルに対して「何を生成してほしいか」を指示の事。通常は、プロンプトとして自然言語で記述して入力
RAG	検索強化生成（Retrieval-Augmented Generation）の略で、外部情報（社内ドキュメント等）を検索し、その結果を生成AIに組み込んで回答する仕組み
RAGAS	RAG Assessmentの略で、RAGを自動で多面的に評価するフレームワーク
LLM	大規模言語モデル（Large Language Model）の略で、大量のテキストを学習し、言語を理解し、質問に自然文で回答する仕組み
Embedding	テキストや画像などの情報を、意味を保持したまま数値ベクトルに変換する仕組み
ベクトルDB	テキストや画像などのデータを数値ベクトルに変換し、その類似度に基づいて高速に検索できるデータベース
UI	（User Interface）の略で、利用者がAIやアプリケーションとやり取りする仕組み
Elasticsearch	オープンソースで分散型検索エンジンで、テキストや構造化データを高速に検索分析する仕組み
Markdown	テキストに「見出し」「箇条書き」「リンク」などの装飾を、簡単な記号で指定できる書き方。ブログなどで良く利用

#	内容	制改定日	責任者
1	1.0	2026/04/30	NPO CIO Lounge AI活用分科会*
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

\*デロイトトーマツコンサルティング合同会社協力のもと作成

**E N D**

# Box Japan

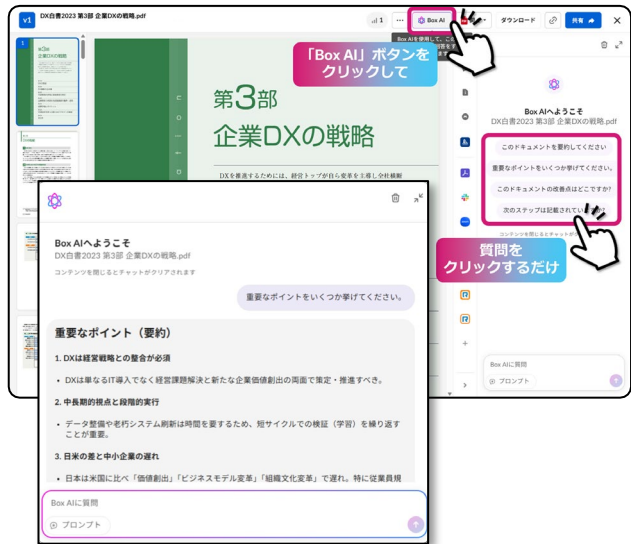
# みんなが使えるAI 「Box AI」

追加料金  
なし

使い放題

誰でも  
かんたん

2クリックで使える!!



Boxの保存したファイルを開いたら、すぐにAIが使えます。

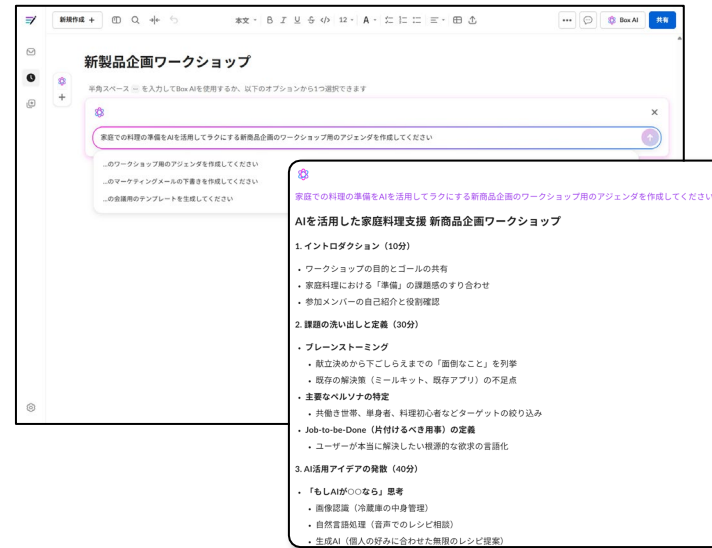
文書の要約・ポイント抽出・翻訳から、Excelの分析、画像の解析まで、かんたん操作でAIを活用できます。

追加料金なしで、使い放題!!

✔️ アドオンライセンス不要

✔️ 利用回数無制限

アイデア創出も、おまかせ!!



AIでゼロからコンテンツを作成することもできます。

会議のアジェンダからアンケート項目、ブログ記事、メール文面まで、AIがアイデアをすぐに提案してくれます。

## お客様の声

### 某食品事業

「主に文章の要約に多く利用されています。Box AIのボタンを押すとプロンプトを入力する画面が現れ、質問の候補がサジェストされます。従業員にはボタンをクリックすることから始めてほしいです」

### 某電力業

「Box AIはBox上に保存した膨大かつさまざまな種類の自社データ群に対し、厳格なアクセス管理のもと、AIチャットを通じて質問や情報検索、要約、分析が行えます」

### 某総合人材サービス業

「社内でプロンプトコンテストを開催して従業員の生成AIスキルの向上を図っていますが、Box AIは、適切なプロンプトの候補をあらかじめ表示してくれるので、簡単に使えます」

Box AIは、法人向けのすべての有償プランに含まれています。Boxをご契約いただくと、すぐご利用いただけます。

# AIエージェントで業務効率化もできる「Box AI」

## Box AIエージェントで、業務処理時間が1/8に!!

### 課題

#### 契約書チェックに とにかく時間がかかる

- × 担当者が契約書をすべて読み込み全項目を1つずつ手作業でチェック
- × チェック項目が多さ（90項目）が担当者の負担に



#### 某金融業における事例

### 解決

#### AIエージェントによる一次チェックで 確認作業時間が1/8に

- 契約書をBoxにアップロードし、AIエージェントに指示することで、チェックリストに基づいた結果と契約書の記載箇所を確認
- AIがすばやくチェックすることで、確認作業が効率化



AIエージェントで契約書の一次チェックを自動化

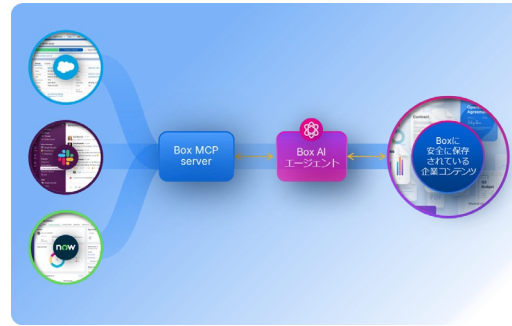


## お客様の声

### 某コンサルティング業

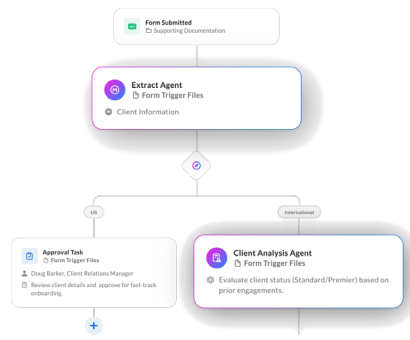
「AIを活用して業務変革を実現するには、『AI』『データ』『ワークフロー』の3つの要素が揃う必要があります。これまではAIとデータまではカバーできていましたが、AIをワークフローにどう組み込むかという観点では、まだ限定的でした。これからは、ワークフローの部分までしっかり入り込める点が非常に大きな違いです」

## ほかのサービスのAIエージェントとも連携可能



Box AIは、MCPをサポートしています。Anthropic Claude、OpenAI Agent Builder、Microsoft Copilot Studio、ServiceNow AI Agent Fabricなどのサービスで、Boxにセキュアに保存されたコンテンツを活用できます。

## AIと人間が協働するワークフローも構築可能に



AIエージェントが業務に浸透していくにつれて重要となってくるのが、人間の介在（ヒューマン・イン・ループ）です。Boxでは、AIエージェントが業務を処理し、結果を人間が確認・承認することで、業務を安全に効率化できるワークフロー機能も提供予定です。



Boxは、コンテンツをセキュアに管理し、インテリジェントに活用できる「インテリジェントコンテンツ管理」プラットフォームを提供するクラウドサービス会社です。国内21,000社以上、日経225企業の84%にご利用いただいております。

詳しくは、[japan.box.com](http://japan.box.com) をご覧ください。

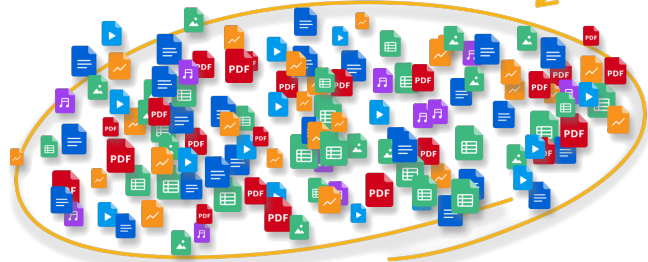
# Box AI – 企業のコンテンツを安全かつ最大限に活用

## 企業内に眠る情報

10%  
構造化データ

90%  
非構造化データ

活用されて  
いない価値



企業の情報の90%は「非構造化データ」です。非構造化データはさまざま形式で作成されているため、いままでは活用することが難しく、そこに含まれるノウハウやナレッジは眠ったままでした。

AIの登場によりこの非構造化データを活用できるようになりましたが、適切に管理できていないと、活用できないどころか、情報漏えいのリスクを伴います。

コンテンツをセキュアに一元管理し、AIで安全に活用できるのが、「Box」です。



Boxは、コンテンツをセキュアに管理し、インテリジェントに活用できる「インテリジェントコンテンツ管理」プラットフォームを提供するクラウドサービス会社です。国内21,000社以上、日経225企業の84%にご利用いただいております。

## 業務を効率化できるBox AIのさまざまな機能

### Box AI for Documents

単一または複数のドキュメントを要約・分析・翻訳

### Box AI for Notes

会議の議題、メール文面、ブログ記事などの下書きを作成

### Box AI for Hubs

ポータルに集約した膨大なファイルからインサイトを獲得

### Box AI Studio

特定の業務要件に適合したAIエージェントを展開

### Box AI サーチエージェント

Box内のコンテンツ全体を検索し有用な情報を引き出す

提供予定

### Box AI リサーチエージェント

膨大なコンテンツを分析し、意思決定に役立つレポートを提供

提供予定

### Box Extract

大量なコンテンツからメタデータをAIで正確に抽出

提供予定（抽出エージェントは提供中）

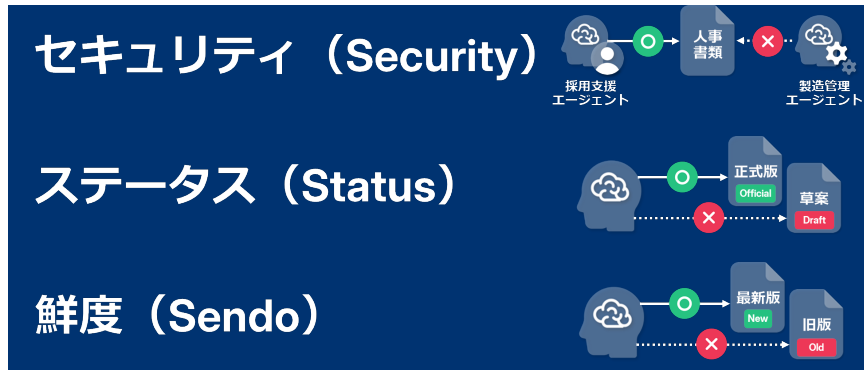
### Box Automate

AIエージェントと人間が協働するワークフローを自動化

提供予定

# Box AI - コンテンツを安全かつ最大限に活用

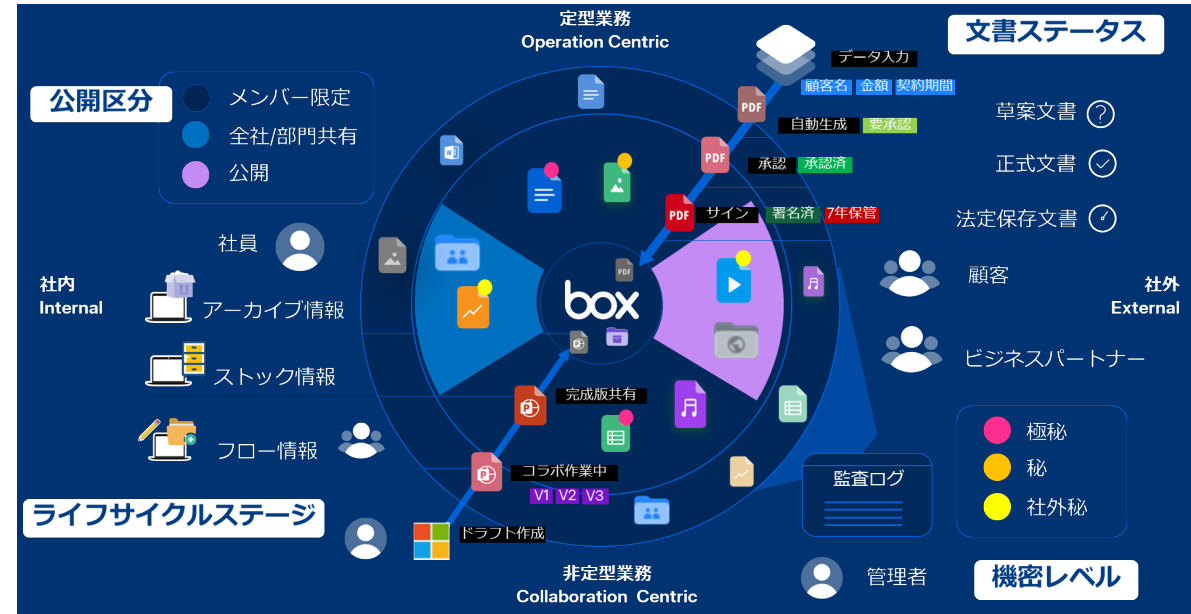
## AIに必要な3つの「s」



AIのアクセス権限を適切に管理して情報漏えいを防ぐ「**セキュリティ**」。正式な情報だけを参照できるようにする「**ステータス**」。情報を常に最新に維持する「**鮮度**」。

3つの「s」を確実に提供できるのが、「**Box AI**」です。

## なぜ、Boxはコンテンツを一元管理できるのか？



## Box AI お客様事例

- 某金融業**  
Box AIエージェントで契約書チェックの作業時間が1/8に
- 某コンサルティング業**  
広報資料の原稿作成から校正までをBox AIエージェントが支援
- 某電力業**  
トラブル報告書を瞬時に作成して、即座に社内共有

### ライフサイクル

- ✓ 共同作業のしやすさ
- ✓ 自動バージョン管理
- ✓ 共有のしやすさ
- ✓ アーカイブ

### 文書ステータス

- ✓ 承認、電子署名
- ✓ 文書の自動生成
- ✓ ワークフロー
- ✓ 年限保存

### 公開区分

- ✓ 7段階のアクセス権限
- ✓ ウォーターフォール型の権限継承

### 機密レベル

- ✓ データ分類
- ✓ 分類ラベルによるアクセス制御
- ✓ AIによる自動分類

詳しくは、Box Japan公式サイトをご覧ください  
[japan.box.com](https://japan.box.com)

# NECの生成AIソリューションについて

## NECのAIガバナンスに関する強み

～AI及びセキュリティにおいて、豊富なコンサルティング実績を有しています～

### ■ 生成AI開発ノウハウをもとにしたサービスのご提供

- 高性能・セキュアなNEC開発のLLM「cotomi」を提供しており、実践的なアドバイスが可能です。
- 国内外のAIのセキュリティガイドラインに精通したメンバーがコンサルティングサービスを提供します。
- NEC社内でAIの利活用が進んでおり、ユーザ目線でのアドバイスが可能です。

### ■ 豊富なAI×セキュリティコンサルティング実績

- 金融業、製造業、総合商社、小売業、不動産業等多業種のAI×セキュリティコンサルティングの実績があります。
- ポリシー策定、アセスメント、インシデント対応体制・プロセス整備、セキュア開発・運用プロセス整備等のコンサルティングサービスの実績があります。
- 個人情報保護法やISMS等のセキュリティ認証等、関連する法規制・サービスに豊富な実績があります。

### ■ コンサルティング提供後の対応支援

- セキュアなAIシステム環境構築や運用サービスのご提供も可能です。
- 生成AIのユースケース洗出し、教育等AI利活用の支援もご提供可能です。

### ■ BluStellar AI（ご参考） <https://jpn.nec.com/ai/index.html>

AI-nativeなスマートソサエティを目指して、あらゆるデジタルトランスフォーメーションを加速  
～人とAIが共存する社会の実現へ～

# NECの生成AIソリューション（NEC Generative AI）

様々な業種の業務アプリケーションに生成AIを搭載。

<https://jpn.nec.com/LLM/index.html#gai-service>

## ■ コンタクトセンターDX（全業種対象：コールセンター業務）

～コンタクトセンター業務高度化から始める顧客体験価値向上～

- ・ コンタクトセンター変革を戦略・構想策定から、自走支援まで、実用性の高いAI技術や実践で得た知見をもとに対応いたします。顧客体験変革やビジネス変革などの新たな価値実現をサポートします。

<https://jpn.nec.com/dx/agenda/cx/contact-center/index.html>

## ■ PLMソフトウェア「Obbligato」（製造業：開発設計業務）

～日本のものづくりを世界へ響かせる～

- ・ 「Obbligato」と「生成AI」の連携によって、過去の膨大な製品技術情報の効率的な活用が可能になります。蓄積された技術情報をもとにLLMが効率的かつ高精度に検索し、設計者の質問に的確な回答をすることで、技術継承・設計業務の高度化をサポートします。

<https://jpn.nec.com/obbligato/index.html>

## ■ 医療文書作成支援AI「MegaOak AIメディカルアシスト」（医療機関対象）

～生成AIを活用して医療文書作成時間を大幅に削減！～

- ・ 生成AI技術の1つである大規模言語モデル(Large Language Model：LLM)を用いて医療文書作成の効率化を図り、働き方改革を実現するクラウドサービスです。

[https://jpn.nec.com/medical\\_healthcare/aimedicalassist/index.html](https://jpn.nec.com/medical_healthcare/aimedicalassist/index.html)

## ■ 導入事例（ご参考）：<https://jpn.nec.com/LLM/index.html#gai-casestudies>



本音がわかる AI×体験分析プラットフォーム

# 「TERUS」ご紹介資料



顧客の声は、もっと経営に活かせる

 **TERUS** は、

多量のコメントやレビューを  
AIで構造的に分析し、  
顧客起点の意思決定ができる  
次世代のツールです。





## リリース直後からさまざまな業界の大手企業が導入・引き合い

業界・業種・業態の枠を超えて、顧客の声を成長の糧として活用



### 自動車業界 大手企業

故障や不満の検知～改修までを早期化

分析工数96%減  
300件80時間→3時間

多言語の一括分析  
分析者の言語で意見ごとに分割

埋もれていた課題検知  
分析軸の組合せによる新しい示唆



### 旅行業界 大手企業

インバウンド向けのマーケティング新企画

声の全量を活用した集客施策  
声の数や重要度などを把握して施策化

売上×属性情報×定性情報で深掘り  
保持データと組み合わせた新しい示唆



### 家電業界 大手企業

隠れたニーズや使い方から新製品企画

想定外のユースケース検知  
提供側からは出ない発想のペルソナ活用

根拠のある”刺さる”企画  
定性的→定量的に見えるからできる提案



### 行政・公益財団法人

住民や観光客の声から地域の活性化

生の声が反映される仕組み  
手が出せなかった分析～施策化の流れを整備

施策結果モニタリングと継続改善  
状況変化にも対応できる好循環

その他の事例も続々と展開中

# NTTデータ・ウィズ

# NTTデータ・ウィズが目指す生成AIを活用したBPS\*

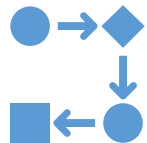
## 生成AI(Agentic AI)を活用した次世代型BPSイメージ①

\*注: BPS(ビジネス・プロセス・サービス)・・・従来のBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)をより進化させ、業務プロセスをITテクノロジーと専門的な業務ノウハウを活用し、業務効率化とプロセス最適化を実現するサービス

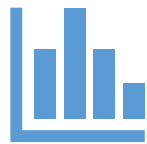
### Before



ドキュメント:  
作業は人がする前提のため、人が理解しやすいように作成される



ワークフロー:  
手作業が中心  
自動化は定型的かつ部分的



管理・分析:  
人の管理が中心  
手作業中心で定型的な管理・分析、リアルタイム性が低い



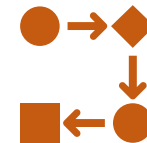
データ:  
手動でのデータ収集・分析、リアルタイム性が低く、活用範囲も限定的

狭い範囲の自動化を基本とし手作業や部分最適を中心とした従来型BPO

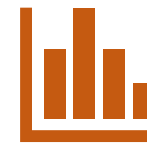
### After



ドキュメント:  
人の作業はAIの作業に置き換える前提のため、AIが理解しやすいように作成される



ワークフロー:  
AIによる自動化が前提  
柔軟性が高く広範囲な業務に適用可



管理・分析:  
AIの管理が中心  
リアルタイムで管理・分析され、効率的な管理と迅速な意思決定



データ:  
AIがリアルタイムでデータを分析、動的かつAI活用前提でデータ設計がされる

広範囲の自動化を基本とし全体最適を実現する次世代型BPS

- 弊社が目指す、生成AIを活用した次世代型BPSとは、上記右図の通り、業務設計、業務プロセス設計、プロジェクト管理、データ分析・管理はすべてAIによる作業を前提に行います。
- 従来型BPOで前提としていた人手作業もしくはRPAからAIエージェントへと進化することで、次世代型BPSでは、AIとの対話を通じてビジネスプロセスが進行し、常に最適化されていくため、自動化範囲もこれまで以上に広がり、業務効率を飛躍的に向上させることが可能となります。

※画像はMicrosoft Copilot で生成されたものです。

# NTTデータ・ウィズが目指す生成AIを活用したBPS\*

## 生成AI(Agentic AI)を活用した次世代型BPSイメージ②

\*注: BPS(ビジネス・プロセス・サービス)・・・従来のBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)をより進化させ、業務プロセスをITテクノロジーと専門的な業務ノウハウを活用し、業務効率化とプロセス最適化を実現するサービス

AIとのコミュニケーションは、ARやメタバース、文字から音声・画像へと多様化



Digital Humanとの会話

人が判断

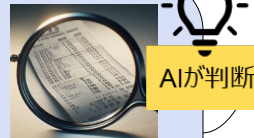
- 人が判断しAIに指示をだしていき

• 今月出張があったので経費精算をしたいです。  
• 申請の方法がわからないので教えてください。

AIが状況を判断して人を誘導

• これお願い。(ARグラスで領収書を撮影)

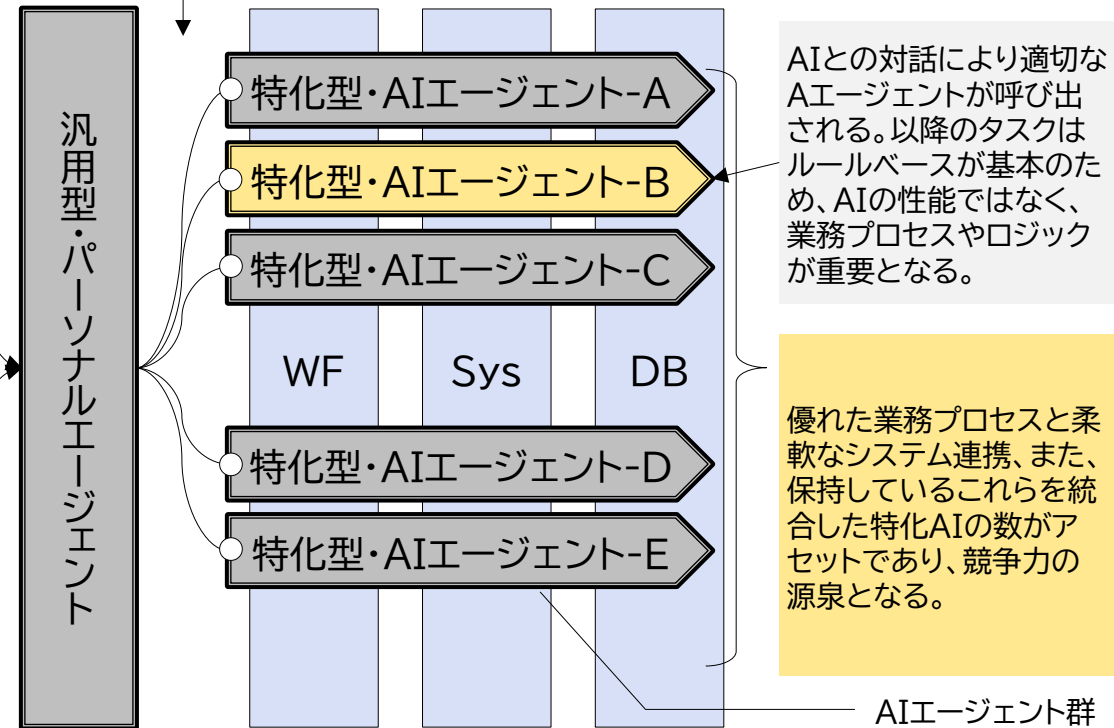
• 出張のスケジュール記録とシステムデータよりAIが自律的に行動を促す



AIが判断

A2A技術

「Agentic AI」の性能差が生まれるポイント



※画像はMicrosoft Copilot で生成されたものです。

※弊社では、Agentic AI を、「人の代わりとなって自律的にタスクを実行するシステム」と定義

- 上記図は経費精算時にAgentic AIを活用する場合のイメージですが、ビジネスシーンにおけるコミュニケーションと業務の進め方は劇的に変わります。
- 次世代型BPSは、このようにタスクや人財の管理ではなく、AIのマネジメントを中心とすることで、業務の効率化と生産性の更なる向上が可能になります。AIが自律的に行動を促し、人々はAIとの対話を通じた効率的に課題解決できる次世代型BPSを、弊社は目指してまいります。

# NTTデータ・ウィズにおける生成AI活用事例

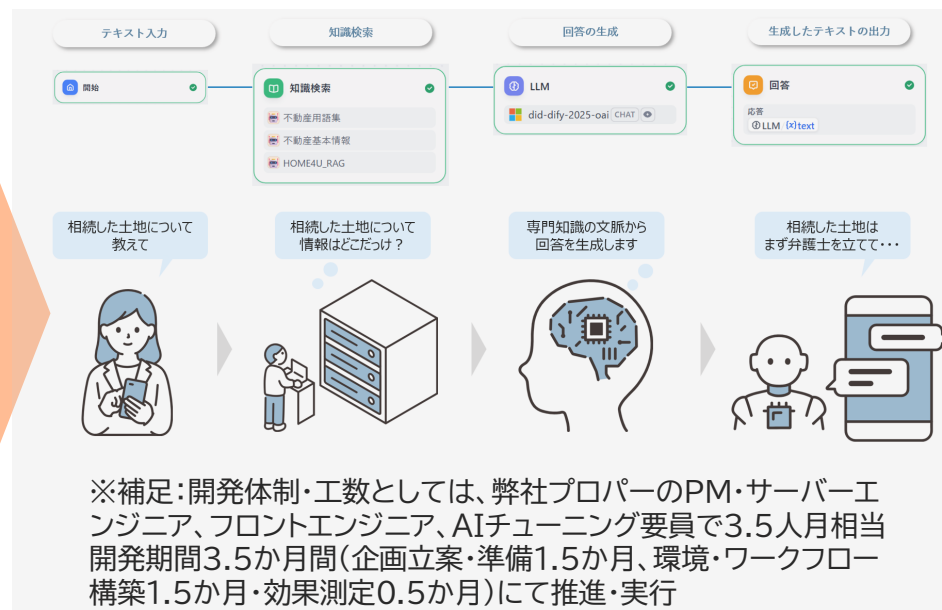
## HOME4U\*×Dify\* 問い合わせボット構築事例

\*注1: Dify...LangGenius, Inc. が提供するオープンソースの開発サービス。主な特徴として、ノーコード・ローコードで生成AIアプリ構築が可能、かつ複数のLLM (GPT, Gemini, Claude, etc...) との組み合わせや、既存のシステムやツールとの連携や外部文書の読込(RAG)も容易である複合AIシステム。

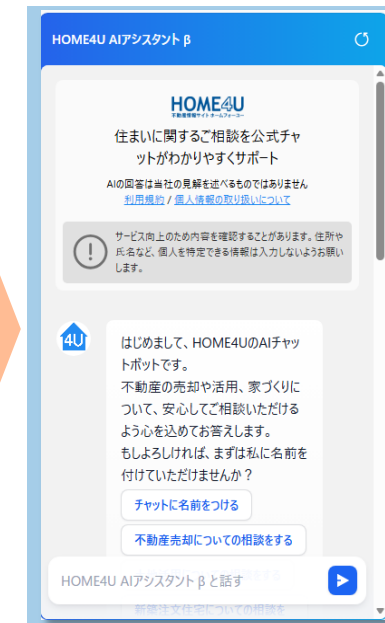
### Point

- 弊社が運用するBtoBtoC向け不動産マッチングプラットフォームにおける、AIチャットボットの内製開発を実施
- 24時間365日オンライン対応の実装によって、顧客体験向上、運用効率UPや、大幅な収益改善等の両立を、低コストかつ短期開発にて実現

### 取り組み概要



### 完成ボット



HOME4U  
不動産情報サイト ホームフォーユー

\*注2: 【ご参考】HOME4Uについて

HOME4U(ホームフォーユー)はNTTデータ・ウィズが運営する、国内最大級の不動産情報サイトです。不動産売却や購入、土地活用、住まい探し、賃貸経営等といった不動産におけるお悩みをサポートいたしますので、もし不動産の「売る」「貸す」「買う」「借りる」にお困りのことがありましたら、いつでもお気軽なくお問合せください。

@ 2026 NPO CIO Lounge

不動産売却

土地活用

新築注文住宅

賃貸経営

不動産購入

お問い合わせはこちら

<https://www.home4u.jp/>

無料 0120-245-171

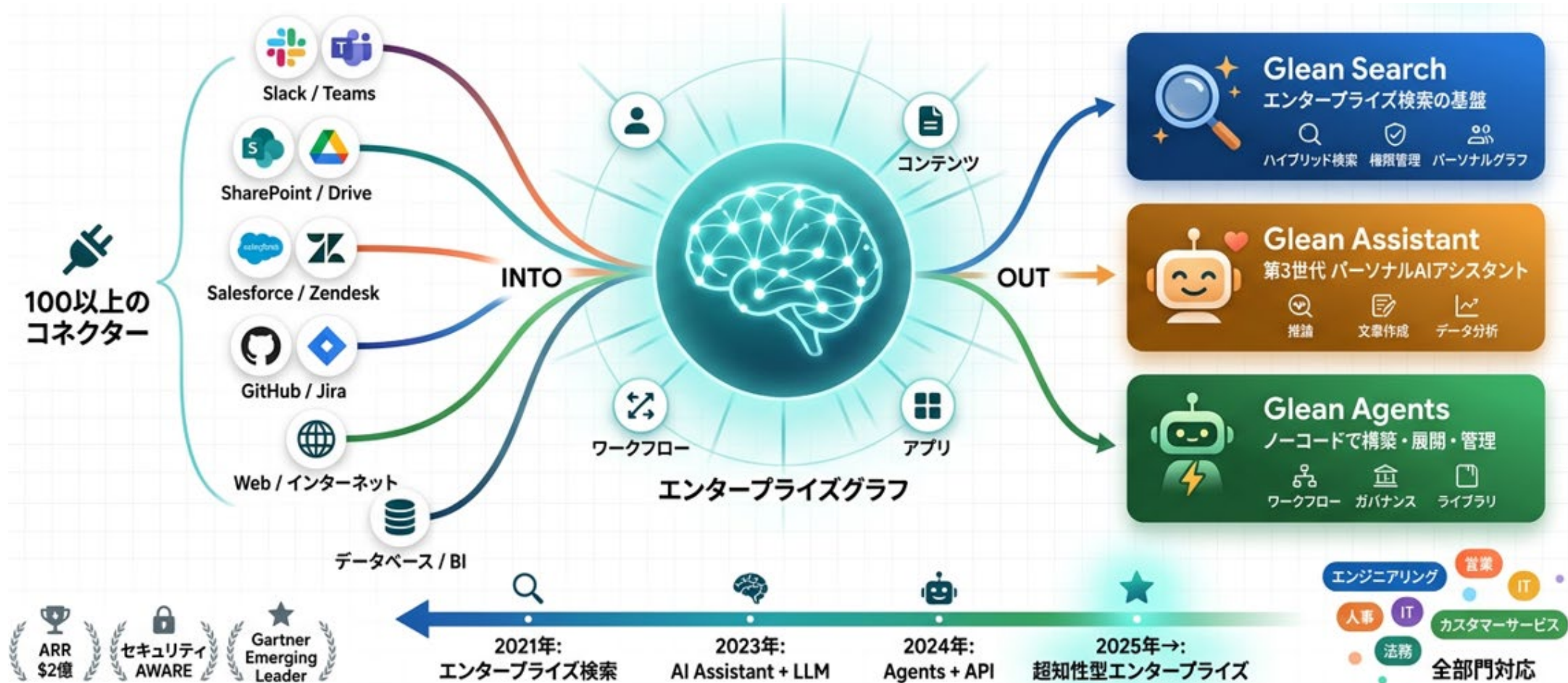
受付時間 10:00~18:00 (土日祝除く)  
携帯電話からもご利用いただけます



# アシスト

# Glean AI Workプラットフォーム

企業内のあらゆる知識をつなぎ、組織知として活用することで、  
全社員の働き方の変革を支援します、



# Glean日本国内での主な事例

電力会社様を中心に、製造業や小売業、保険業など業種業態問わず、多くのお客様でご利用いただいています。



(左) IT戦略室 業務改革推進グループ 笹井 香菜 氏  
(中) IT戦略室 業務改革推進グループ マネジャー 杉浦 一成 氏  
(右) IT戦略室 業務改革推進グループ 田倉 有夏 氏

関西電力株式会社（以下、関西電力）では、2030年頃のAI産業革命を見据えたDXビジョンを策定しました。オフィス業務DXでは、全社のデジタルワークスタイルを推進するツールとして、横断検索のGleanと動画共有のPanoptoを採用。情報の一元化や組織内外のコミュニケーションの活性化により、時間と場所を気にせず業務を遂行し、労働効率の最大化を実現しています。



「Gleanの導入から2カ月後に全社員アンケートを実施したところ、『BoxとSPOを1つの検索窓から検索できて便利』という横断検索の実現に対する評価が多く寄せられました。利用者の9割以上が『満足』と回答、検索時間は全社で『年間41,000時間以上』の削減効果を確認しました」

関西電力株式会社  
IT戦略室 業務改革推進グループ  
マネジャー 杉浦 一成 氏



株式会社中電シーティーアイ（以下、中電CTI）では、ナレッジ共有プラットフォームを構築しました。このプラットフォームに、企業向けインサイトエンジンGleanと、エンタープライズ動画管理基盤のPanoptoを採用。これらを活用しながら、情報の民主化を推進中です。



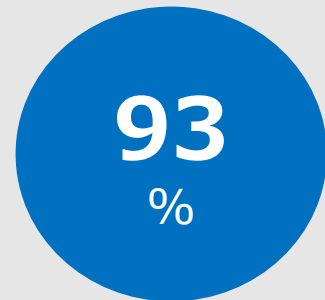
「業務で得たナレッジに従業員の誰もがアクセスし、有効活用しやすい環境を目指して模索していました。その中で、知識をベースに人のつながりを強化する“Internet of Knowledge”を知り、この考え方を基に業務を改善。結果、DX推進と情報の民主化を実現できました」

株式会社中電シーティーアイ  
技術本部 DX推進室長 池田 佳裕 氏  
技術本部 DXソリューショングループ グループリーダー 足立 一夫 氏

Glean活用による年間最大の  
1名あたりの節約時間



Glean導入後の定着率  
(2年間)



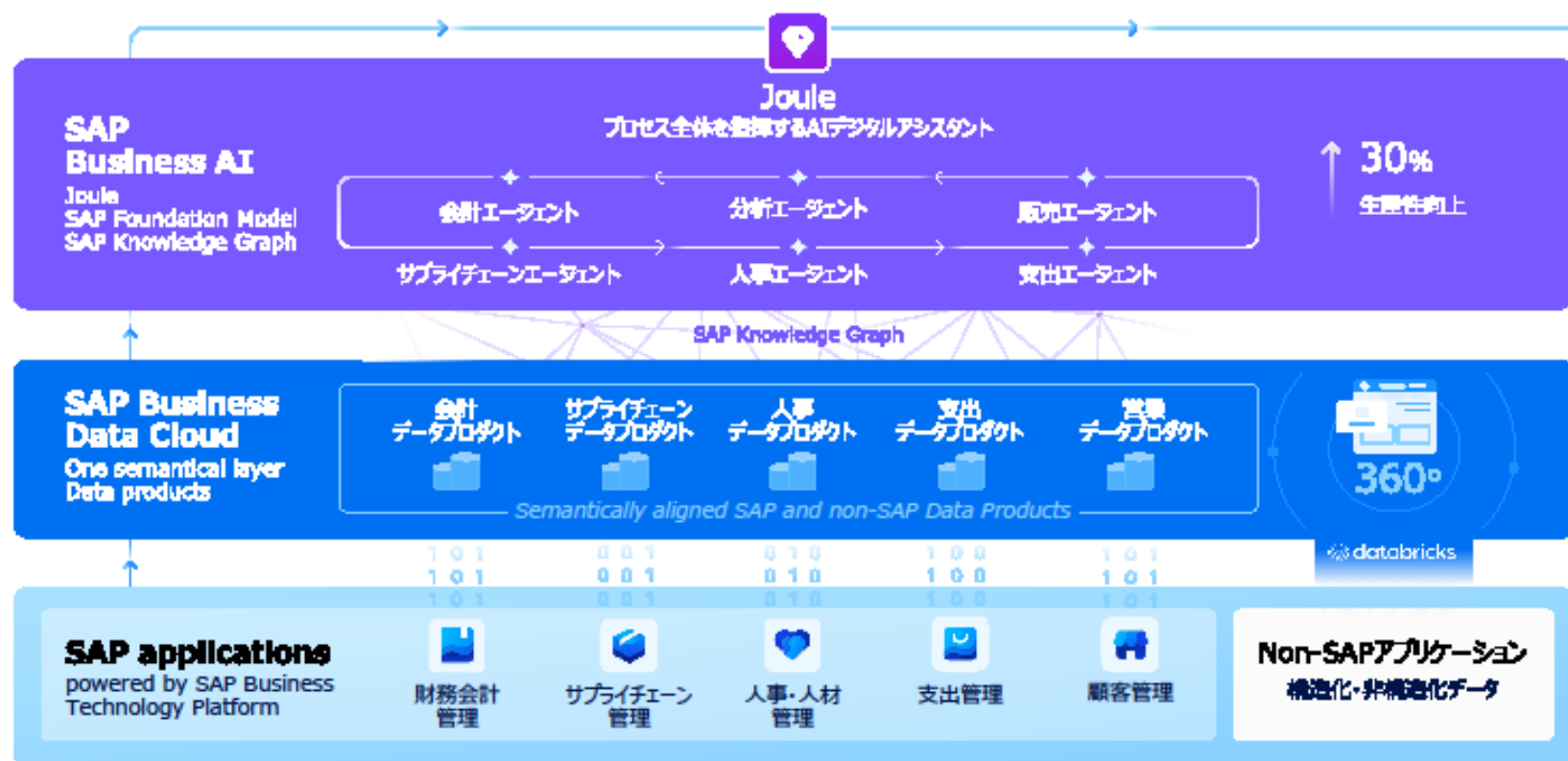
※Glean社による調査結果

株式会社アシストは、日本初のGlean導入ユーザーであり、かつ全社利用ユーザーであり、日本国内初のGlean販売代理店でもあります。自社のサポートセンターや営業・技術・人材育成など、多様な業務での活用ノウハウをそのまま提供可能です。

# SAPジャパン

## SAP Business Suite: アプリケーション、データ、AI を統合して企業経営のビジョンを実現

「AI ドライブン経営」のビジョンに向けて、「AI エージェント」を活用して業務の自動化・効率化、および分析～施策立案の高度化を実現します。そのため、SAP アプリケーションのデータを SAP Business Data Cloud へ自動連携し「信頼できるデータ基盤」を構築し、「AI Ready なデータ」として社内外の様々なユースケースで有効活用します。



### AIドライブンの経営管理

業務プロセス、データ、アプリケーションを正確に理解した AI エージェントと業務ユーザーが協働して業務を進めることにより、圧倒的な生産性向上を実現

### 信頼できるデータ基盤

確実に管理され100%正確で信頼できるビジネスデータ基盤  
業種上の意味・データ形式などが統一されたセマンティックレイヤ

### 最高のビジネススイート

End-to-End で統合されたビジネスアプリケーション群  
SAP および Non-SAPアプリケーション間のプロセスも統合

## SAP Business AI - 業務プロセス全体の生産性を向上するAIソリューション

SAP Business AI は、お客様の業務を的確にサポートする AI アシスタントである「Joule (Joule Agent を含む)」、標準のシナリオを拡張するための「Joule Studio」、各業務アプリケーションを効率化する「組み込みAI」、生成AI+RAG などのお客様独自の AI シナリオ開発のための「カスタム AI」、そして、これらを支える共通 AI 基盤 (AI Foundation) とパートナーエコシステムで構成されます。



### AIエージェントのユースケース:

- サプライチェーンの俊敏性の向上
- 支出管理の強化
- メンテナンスプランナーエージェント
- 出張計画エージェント
- 製造現場スーパーバイザーエージェント
- ソーシングエージェント
- SAPによる財務の変革
- 顧客体験の変革
- クレーム解決エージェント
- 見積り作成・管理エージェント
- 売掛金エージェント
- 製品カタログ最適化エージェント

### 組み込みAIのユースケース:

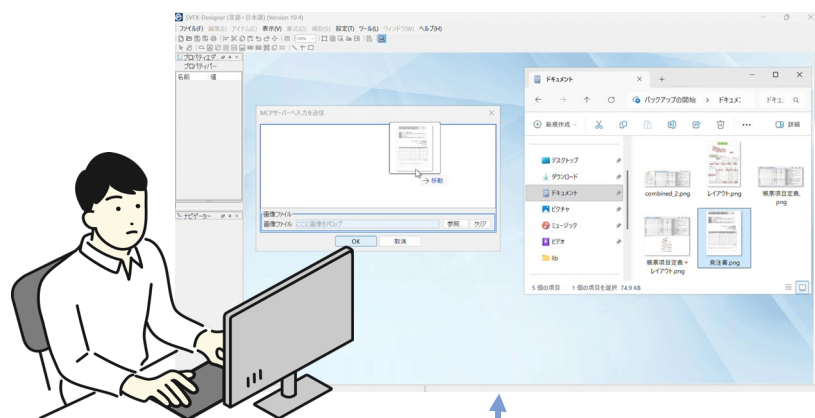
- 予測・予知・異常検知
  - 設備のパフォーマンスデータに基づく異常検出
  - サプライヤ納期予測
  - 入金消込の自動化
  - 異常な取引不正のリアルタイム検知
- 過去の類似データに基づくデータ生成
  - 類似データからのメンテナンスオーダー作成
  - 受注の入力漏れ項目の自動提案
- ドキュメント・画像からの情報検知・データ生成
  - 注文書PDFからの受注生成
  - 画像情報からの品質チェック・異常検出

### SAPの導入・運用の生産性を向上するAIサービス

- **Joule for Consultants**  
SAPの技術文書・導入方法論を学習したAIがSAPコンサルタントの日々の調査にかかる時間を削減
- **Joule for Developers**  
最新のABAP言語を学習したAIが クリーンコアを維持したABAPコードの生成など様々な開発タスクをサポート

# ウイングアーク 1 s t

## SVF X-Designer



生成AI

SVFフォーム生成用  
プログラムを生成

SVF  
Form Framework  
SVFフォーム生成ライブラリ

XML

SVFで完全サポートされる  
SVFフォームファイルを生成

帳票レイアウト画像または仕様書の画像を生成AIに与えることで、  
SVFで完全サポートされるSVFフォームファイルが生成される

## Dr.Sum 生成AIの情報源となるデータ基盤

### ■ システム概要

社内に散在したデータを集約し一元管理を行うツール。  
AI機能を搭載し、自然言語でデータ加工やレポート作成が可能。

### ■ 主な機能

- SQL/ Pythonスクリプト自動生成：自然言語でSQL文やPythonスクリプトを自動作成
- SQL解説機能：既存のSQL文の内容を解説。より効率的に処理できる改善案を提示
- レポート作成：自然言語でレポートを作成

### ■ 活用イメージ

SQLが苦手なDB管理者を支援。実行したい処理をテキストで指示するだけでSQLやPythonスクリプトを生成。データ加工に対するハードルを大幅に下げるとともに、工数を削減することが可能

## MotionBoard 現場のAI活用を支えるデータアプリ基盤

### ■ システム概要

自然言語でダッシュボードや業務アプリの作成が可能なツール。  
生成AIによるインサイト分析も可能。

### ■ 主な機能

- AIウィジェット：自然言語でチャート、ダッシュボード、アプリを作成
- チャートデータ解析：チャートデータを生成AIで分析することで、自動でインサイトを出力
- 自由分析：自然言語でデータ項目やチャートの種別等の変更を指示

### ■ 活用イメージ

自然言語でダッシュボードを作成できるため、ダッシュボード作成工数を軽減。利用者は生成AIで分析された結果からインサイトを得ることが可能

## SVF 帳票ライフサイクル全体のAI革新

### ■ システム概要

生成AIと当社技術の連携により帳票の設計・受領・保管・活用を支援。MCP連携でAIエージェントからの自律的な帳票業務処理を実現する。

### ■ 主な機能（対応予定）

- 対話型帳票設計：自然言語で専門知識不要の迅速な帳票設計支援を実現。
- 文書の自動データ化：受領した多様な帳票を自動処理し、基幹システムへ連携。
- AIエージェント連携（MCP）：保管文書をAIエージェントが自律的に検索・参照・業務活用。

### ■ 活用イメージ

AIが帳票業務の設計支援、保管・活用を自律処理し、人が意思決定に集中できる企業間DXを実現する。

## Trustee タイムスタンプ

### ■ システム概要

SVFで作成、および保管したPDFファイルに、リモートでタイムスタンプを付与、および、タイムスタンプの検証が可能。タイムスタンプを付与したPDFファイルの存在証明と非改ざん証明が可能となる。総務大臣認定のタイムスタンプの為、電子帳簿保存法に対応した正式なタイムスタンプである。

### ■ 主な機能

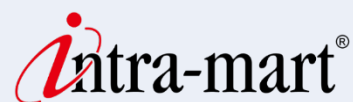
- PDFにタイムスタンプ付与可能なクライアントライブラリ
- SVFで作成したPDFに自動でタイムスタンプ付与
- SVF Archiver/Transactに保管されたPDFにタイムスタンプ付与
- タイムスタンプ検証

### ■ 活用イメージ

SVFでPDFを作成、およびPDF生成ツールでPDFを作成と同時にタイムスタンプを付与することにより、企業間取引プロセス上で、AI等によるPDFファイルの改ざんが発生しても、検証機能により、改ざんの検知が可能。また、公式なファイル生成時間の真実性の確保も可能。

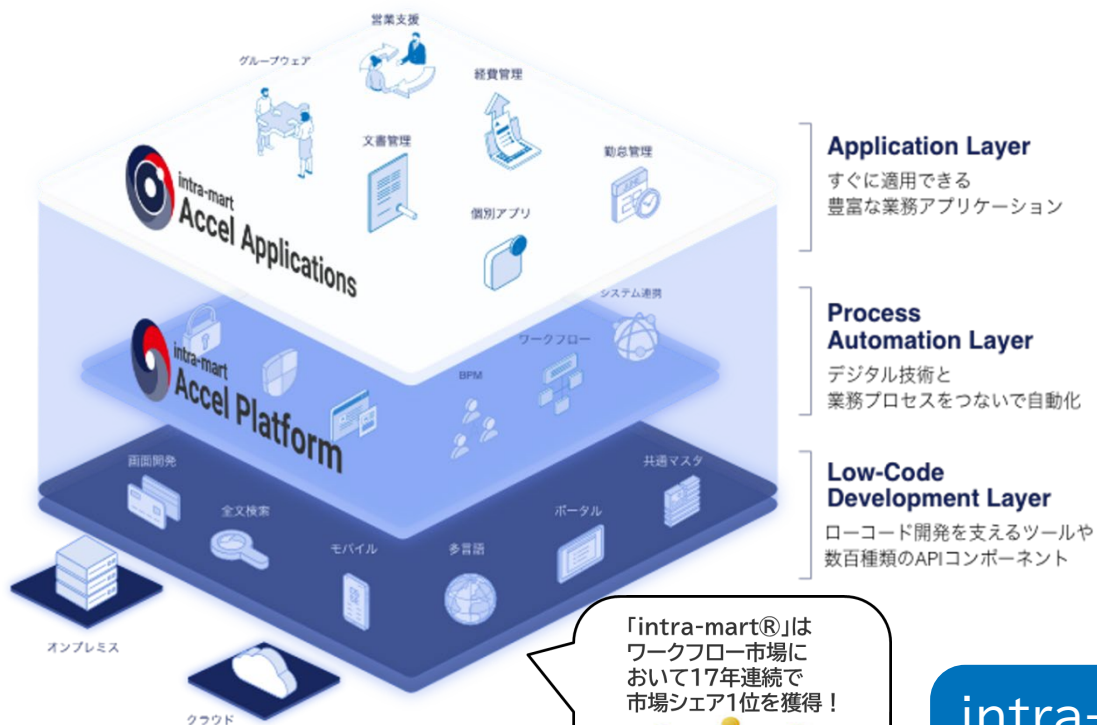
# intra-mart×生成AI連携

# intra-mart × 生成AI連携『IM-Copilot』



intra-martはシステム開発から運用を支援するエンタープライズ・ローコードプラットフォームです。生成AIをエンタープライズレベルで安全・安心に活用するためのセキュリティ・権限管理、データ連携、サービス連携をまとめて、生成AI連携機能『IM-Copilot』として提供します。

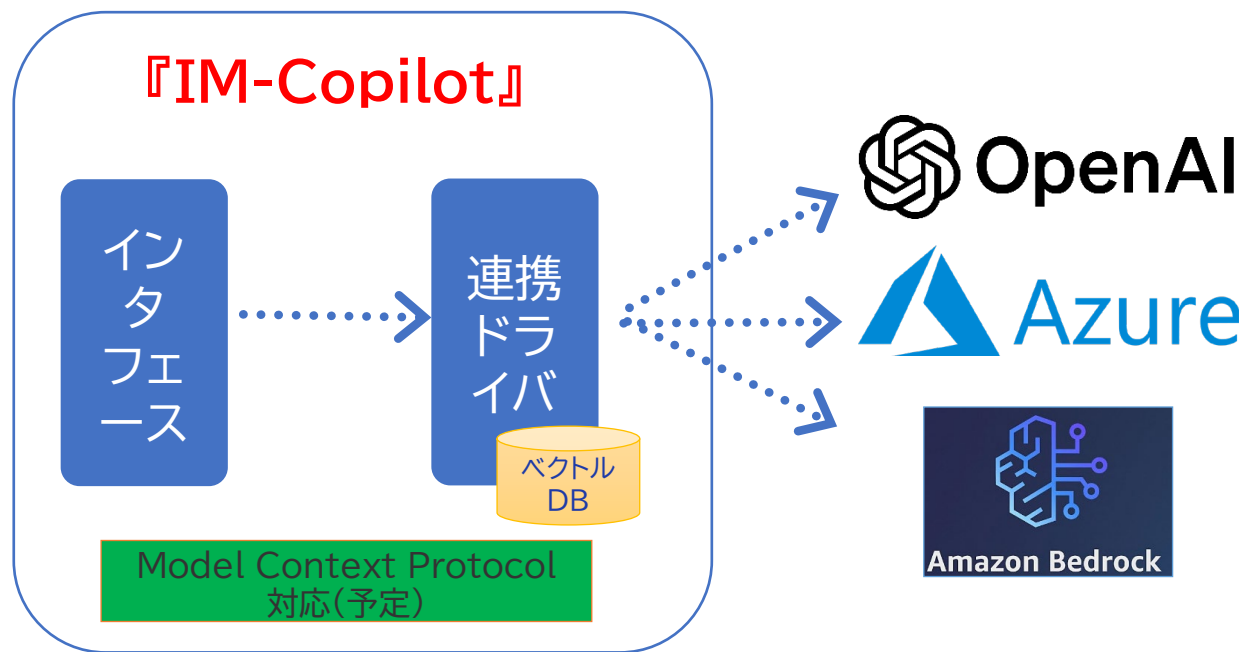
intra-mart



「intra-mart®」はワークフロー市場において17年連続で市場シェア1位を獲得！



出典：株式会社富士キメラ総研発刊「ソフトウェアビジネス新市場 2011～2024年版」



intra-mart『IM-Copilot』を利用することで、セキュアな生成AI利用と、システム開発～運用効率化ならびにユーザ向け支援機能を実現することが可能です

# 『IM-Copilot』により実現する機能(順次機能追加)

## Wikiアシスタントの例



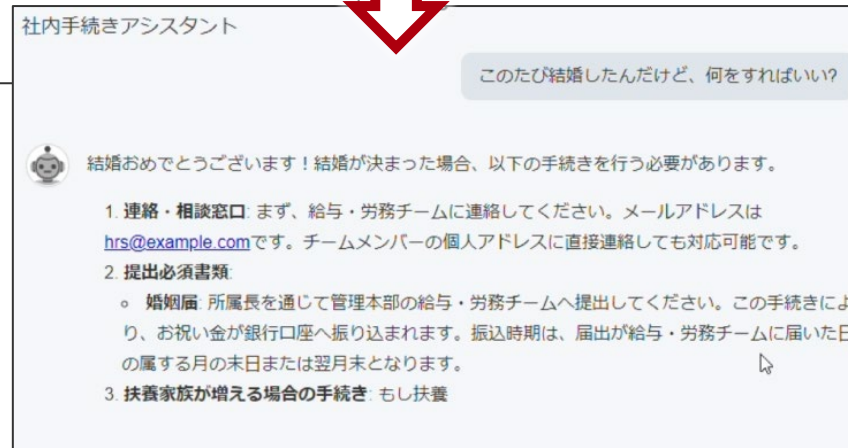
社内情報(Wiki)を安全・安心にRAG利用できるAIチャットボットを、簡単に作成可能

自動でRAG利用できるデータに変換



様々なファイルに対応

< 詳しくはこちら >



提供元・お問い合わせ先 株式会社NTTデータ イントラマート  
[URL]<https://www.intra-mart.jp/inquiry.html>

## 開発アシスタントの例



「AI開発アシスタント」  
チャットでアプリケーションを自動生成できる



「BIアシスタント」  
グラフ作成を手伝ってくれる

AI開発アシスタント例)  
チャットや手書き画像から画面自動生成



社内での生成AI活用の「ユースケースカタログ」やRAGを含めた生成AI導入で役立つ「AI活用メソドロジー」を提供

# AIエージェント開発専用プログラミング言語

## 「DANA」

複雑なプロンプトは不要。  
自然言語で家臣に伝えるような、直感的なAI開発へ。

フェンリル株式会社

# 30行 → 数行。AI開発を劇的に簡略化

- ✓ PythonやJavaScriptのような自然な記法
- ✓ AIの能力を直接言語レベルで利用
- ✓ 複雑なプロンプトテンプレート不要
- ✓ 透明性の高い処理フロー

## 数行でAI開発が完結

### 従来 (LangChain等)

```
# 従来LangChain (複雑)

from langchain.chains import ConversationChain
from langchain.memory import ConversationBufferMemory
.
.
.
# 複雑な設定が30行以上...
```

圧倒的な  
コード量の差

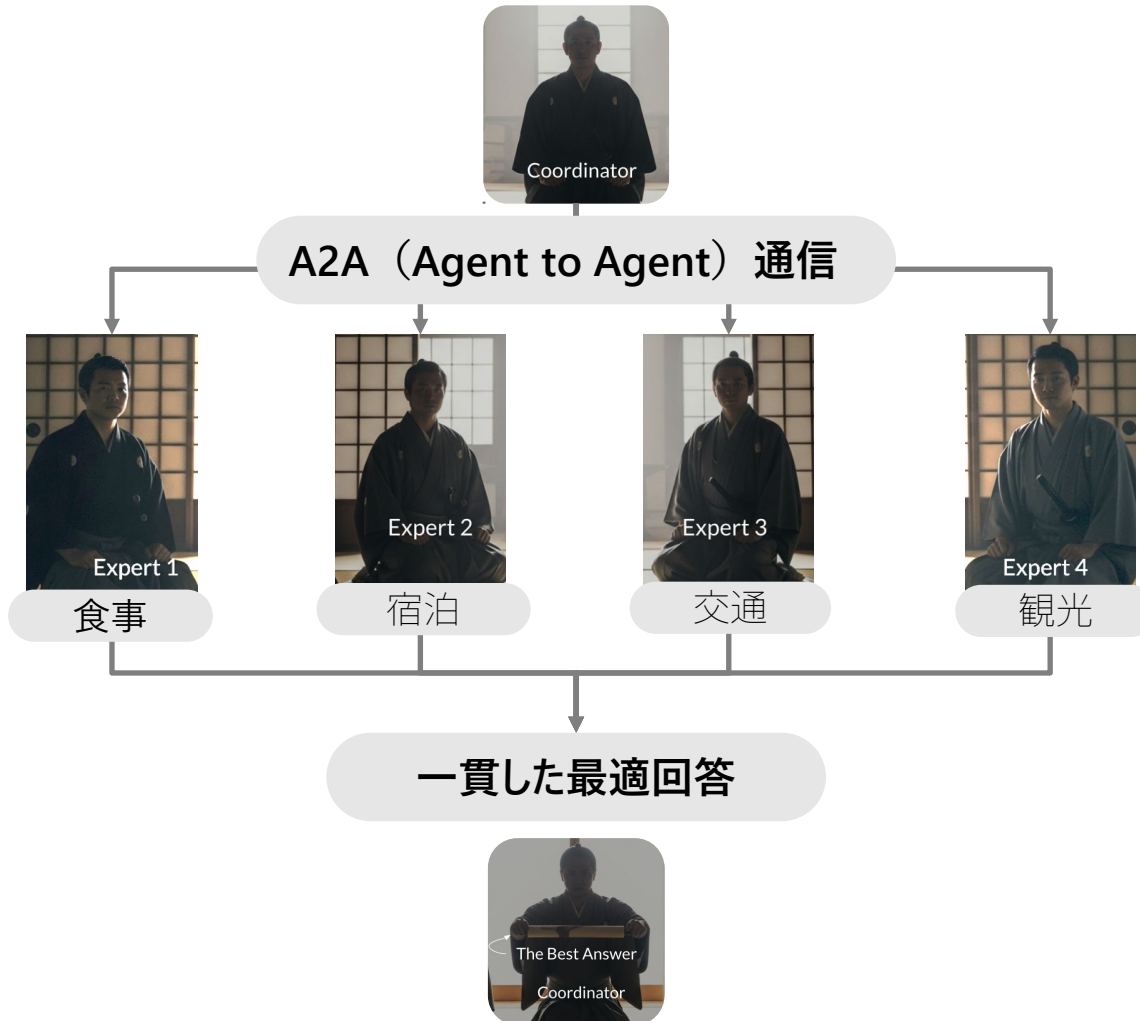
### DANA

```
# Dana (シンプル)

def process_user_query(query, language):
    local:response = reason("五島列島の観光専門家として" +
    query + "に回答")
    return local:response
```

# DANAの処理フロー

例：3泊2日の旅行プランを教えてください



処理フロー

1. 入力検知
2. エージェントを選択
3. A2A通信
4. 統合出力